

令和7年度  
事業報告書



社会福祉法人 ゆたか会

# 目 次

1. はじめに	・・・ 1
2. 法人本部	・・・ 2
3. 障害者施設支援部	・・・ 14
4. 相談支援部	・・・ 19
5. 介護保険部	・・・ 29
6. 児童支援部	・・・ 39
7. 通所系支援部	・・・ 43
8. 共同生活援助部	・・・ 46

## 1. はじめに

令和7年度は中期経営戦略の2年目として、各事業所において事業の本格的な実施を進めた一年であった。外的・内的要因により部門間で成果に差は見られたものの、障害福祉分野における加算取得や相談支援件数の増加により収入は着実に伸長した。一方、介護保険分野においては利用調整の影響等により一部で収入減少が見られたが、法人全体としては収支状況の改善を図ることができた。

事業面においては、THREE-Pの建屋を軸とした事業展開を重点的に進めた。就労継続支援B型事業では、地元企業の協力のもと自主製品「みのすけ」の製造販売を開始し、新たな収益機会の創出につなげた。また、生活介護のサテライト事業「アトリエ横尾」については令和8年度の開設に向けた準備を進めた。加えて、建屋1階スペースの地域開放を通じて、地域住民や関係機関との接点づくりにも取り組んだ。これらの取組は、今後の事業拡充および地域に開かれた法人運営の基盤となるものである。

組織運営においては、令和8年度以降を見据え、各管理者および役職者の役割を明確化し、課長を中心とした運営体制への移行準備を進めた。これは事業継承と持続的な法人運営を見据えたものであり、中長期的な視点に立った組織体制の再構築である。また、令和9年度から開始予定の第四次経営戦略（3カ年計画）の検討にも着手し、将来を見据えた経営基盤の強化を図っている。

以上のことから、令和7年度は収支改善を実現するとともに、重点事業の推進および組織体制の転換に向けた基盤整備を進めた年度であったと総括する。

今後も社会環境の変化に的確に対応し、安定的かつ持続可能な法人運営の確立に努めていく。

部署名：法人本部

①地域貢献の視点

重点課題	地元企業との協同事業の実施	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・THREE-Pにおいて、「みのすけ」の販売を開始した。</li> <li>・販売開始にあたり損益分岐点および最低販売個数等の数値面での検討支援を行った。あわせて、事業としての撤退基準を設定し、事業継続の安全性・リスク管理の観点から助言を行った。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・販売状況を定期的にモニタリングし、安定的な販売につながるようバックアップ体制を整備する。</li> </ul>		
重点課題	災害時要援護者の受け入れ	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加西市社会福祉法人連携協議会主催の災害訓練に参加し、その中で災害時要援護者の受け入れ訓練を実施した。</li> <li>・受け入れに係る基本的な対応手順の確認を行うとともに、関係機関との連携体制の一部を検証した。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時要援護者の受け入れについて、各事業所と連携しながら訓練を継続的に実施し、実際の受け入れを想定した運用体制の強化を図る。</li> </ul>		
重点課題	ほっとかへんネットへの参加	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加西市社会福祉法人連携協議会の活動に参画し、地域福祉連携の推進に協力した。</li> <li>・兵庫大学のフィールドワーク及び武庫川女子大学のソーシャルワーク実習の受け入れに協力し、実践的な学びの場の提供を行った。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、加西市社会福祉法人連絡協議会に参画し、地域課題への対応及び人材育成（実習受け入れ等）に積極的に協力する。</li> </ul>		

②財務の視点

重点課題	希望の郷の建て替えに係る資金確保	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各事業所へ訪問し収支状況の共有を行い、事業所単位での黒字化に向けた意識付けと改善指導を実施した。</li> <li>・一部事業所においては利用者数が想定を下回り、全事業所での黒字化達成には至らなかったが、法人全体としては収支の大幅な改善が見られた。</li> <li>・各事業所の管理者等において収支に対する意識変化が見られ、予算達成度や収支改善への取組意欲が向上している。</li> <li>・受託事業については、行政による受託単価の見直し（増額）が必要であり、構造的な収支改善には一定の時間を要する状況である。</li> <li>・国庫補助金及び民間金融機関からの借入等について情報収集を継続している。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き各事業所への訪問を通じ、収支管理の徹底と「赤字を放置しない」体制の定着を図る。</li> <li>・建て替え資金の確保に向け、新規事業の検討及び財源確保策の具体化を進める。</li> </ul>		

重点課題	資金収支計画の策定	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3か年資金収支計画を策定するとともに、人材確保計画及び施設整備計画を併せて整理し、中長期的な法人運営の基礎資料を整備した。</li> <li>・策定にあたっては、建て替え計画及び人材確保の見通しを踏まえた一体的な検討を行った。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・策定した資金収支計画について、実績との比較・検証を定期的に行い、実態に即した見直しを実施する。</li> <li>・外部環境の変化（収入構造、人件費動向等）を踏まえ、計画の精度向上と実効性の確保を図る。</li> </ul>		

### ③顧客の視点

重点課題	各委員会での共同による事業展開	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会間での共同による事業展開には至らなかった。</li> <li>・一方で、広報委員会と人材確保委員会においては所掌内容に重複が見られたため、効率化の観点から機能の統一を行った。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会の役割及び所掌内容について再整理を行い、実態に即した体制への見直しを図る。</li> <li>・委員会の必要性や設置目的を再検討し、効果的・効率的な組織運営体制の構築を目指す。</li> </ul>		
重点課題	人材確保委員会による人材確保施策	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報委員会と人材確保委員会において、所掌内容に重複が見られたため、効率化の観点から機能の統一を行った。</li> <li>・インターンシップの実施に向け募集を行ったが応募には至らず、手法や内容について課題が明らかとなった。</li> <li>・職員交流会を9月及び2月に実施し、アンケート結果を通じて職員ニーズの把握を行った。</li> <li>・前人材確保委員会で提案したリフレッシュ休暇制度について、令和8年度からの導入を決定した。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップについて、広報・人材確保委員会において実施方法の見直しを行い、応募につながる仕組みを再構築する。</li> <li>・インターンシップの見直しと並行し、新卒者確保に向けた他の手法についても検討を進める。</li> <li>・職員交流会についてはアンケート結果を踏まえ、より参加しやすく効果的な企画内容へと改善する。</li> </ul>		

#### ④業務プロセスの視点

重点課題	災害訓練の実施	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加西市社会福祉法人連絡協議会主催の災害訓練に立候補し、BCPに基づく実証的な災害訓練を3月に実施した。</li> <li>・訓練は希望の郷において実施し、法人本部と希望の郷の2班体制とすることで、災害時における役割分担及び連携の流れを実践的に確認した。</li> <li>・当該訓練には加西市内の社会福祉法人関係者及び当会の各事業管理者が見学し、実践的かつ有効な取組として評価を受けた。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本訓練により得られた課題及びノウハウを踏まえ、法人全体を対象とした災害訓練を実施し、BCPの実効性向上を図る。</li> </ul>		
重点課題	第4次中期経営戦略の策定	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3次中期経営戦略の中間報告を実施し、進捗状況及び課題の整理を行った。</li> <li>・関連計画として3か年資金収支計画を策定し、次期中期経営戦略の基礎資料を整備した。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和9年度からの第4次中期経営戦略の策定に向け、令和8年6月より検討を開始する。</li> <li>・第3次計画の検証結果及び各種関連計画を踏まえ、実効性の高い戦略の構築を進める。</li> </ul>		
重点課題	希望の郷の建て替え計画の立案	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望の郷における「新事業計画策定委員会」の組織化には至らなかった。</li> <li>・一方で、法人の顕在化する諸課題について、理事長をはじめとする幹部職員により洗い出し及び整理を行い、今後の方向性検討に向けた基礎作業を実施した。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和8年度より新たな体制のもとで再出発し、建て替え計画の具体化に向けた検討を進める。</li> <li>・策定済みの3か年資金収支計画を踏まえ、希望の郷における新事業の在り方を含めた計画立案に着手する。</li> </ul>		
重点課題	法人内事業の連携によるサービスの向上	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理者会議の開催頻度を3か月に1回と見直し、各管理者が現場運営に注力できる体制とした。</li> <li>・会議機会の減少を補完するため、毎月各事業所を訪問し、収支状況の共有及び運営課題の協議を行うことで、個別かつ実効性の高い連携を図った。</li> <li>・これにより、各事業所の状況把握が進み、課題の早期共有及び対応につながった。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理者への定期的な情報共有により、収支状況への関心及び経営意識の向上が見られたことから、引き続き取組を継続する。</li> <li>・令和8年度より会議体を再編し、職員理事を中心とした法人運営会議（月1回）及び課長級以上が参加する経営会議（奇数月）を新たに実施することで、全体最適の視点での連携強化を図る。</li> <li>・各事業所への月1回の訪問についても継続し、現場との双方向の情報共有体制を維持する。</li> </ul>		

重点課題	外国人労働者の積極的雇用	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミャンマーから技能実習生1名の受入れを予定していたが、同国内の地震の影響により入国が遅れ、令和8年度への延期となった。</li> <li>・海外情勢の影響により、外国人材の受入れが外的要因に左右される課題が明らかとなった。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・延期となっていたミャンマーからの技能実習生1名について、6月の入職を予定している。</li> <li>・紹介により、ベトナム人の特定技能外国人1名を6月に採用予定とし、人材確保の多様化を図る。</li> <li>・ミャンマーの国内情勢が不安定であることから、特定の国に依存しない受入体制の構築に向け、インドネシアやネパール等、他国からの人材確保の可能性について検討を進める。</li> </ul>		
重点課題	少数精鋭による組織体制の構築	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各事業所への訪問を通じて、職員配置の現状把握を行った。</li> <li>・報酬改定を踏まえた各事業の分析により、適正な職員配置基準の整理を行った。</li> <li>・3か年資金収支計画と連動した人材採用計画を策定し、中長期的な人員配置の方向性を明確化した。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材採用については、財政状況を踏まえ、必要最小限かつ効果的な人員確保を基本とした運用を行う。</li> <li>・職員の属人化解消及び組織の柔軟性向上を目的として、人事異動を計画的に実施する。</li> <li>・正規職員を総合職と一般職に区分し、それぞれの役割を明確化することで、効率的な組織運営体制の構築を図る。</li> </ul>		
重点課題	ICT化の推進による業務負担の軽減	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望の郷においてシフト作成ソフトを導入し、業務効率化に向けた取組を開始した。</li> <li>・勤怠管理システムについては、打刻エラーが多く発生しており、運用面における課題が明らかとなった。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勤怠管理システム及びケアカルテの運用状況について検証を行い、業務の平準化及び効率化への効果を評価する。</li> <li>・職員に対する勤怠管理システムの再教育を実施し、打刻エラーの削減と適正運用の定着を図る。</li> <li>・希望の郷で導入したシフト作成ソフトについて効果検証を行い、有効性が確認された場合は他事業所（大空・どっこいしょ）への展開を検討する。</li> <li>・預り金管理のICT化について検討を進め、業務負担軽減と管理精度の向上を図る。</li> <li>・ICT化の更なる推進に向け、継続的な情報収集及び導入検討を行う。</li> </ul>		

### ⑤学習と成長の視点

重点課題	次世代を担う職員の育成	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人主幹研修に係る職員別受講計画の作成が遅れており、計画的な人材育成に課題が見られた。</li> <li>・人材育成の基盤となる人事考課制度について、現行制度の課題整理を行い、抜本的な見直しの必要性を確認した。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末までに育成対象職員のリストアップを行い、体系的なキャリアアップ制度の再構築を進める。</li> <li>・人事考課制度について、評価基準や運用方法を含めた抜本的な見直しに着手し、人材育成と連動した仕組みの構築を図る。</li> </ul>		
重点課題	各事業所の新たな事業の実施に向けての準備	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第三次中期経営戦略の進捗状況について各事業所へのヒアリングを実施し、現状の取組状況及び課題の把握を行った。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望の郷における新規事業の在り方について検討を開始し、建て替え計画とも連動した事業構想の整理を進める。</li> <li>・各事業所の現状分析及び中期経営戦略との整合性を踏まえ、新たな事業展開の具体化を図る。</li> </ul>		
重点課題	希望の郷の事業見直し	事業判定	未実施
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望の郷における「新事業計画策定委員会」の組織化には至らなかった。</li> <li>・一方で、法人の顕在化する諸課題について、理事長をはじめとする幹部職員により洗い出し及び整理を行い、今後の方向性検討に向けた基礎作業を実施した。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和8年度より新たな体制のもとで再出発し、建て替え計画の具体化に向けた検討を進める。</li> <li>・策定済みの3か年資金収支計画を踏まえ、希望の郷における新事業の在り方を含めた計画立案に着手する。</li> </ul>		

令和7年度 会議開催実績

監事監査

回数	日時	議題	備考
	令和6年5月20日 10:00～12:00	令和6年度事業監査	
	令和6年5月22日 10:00～12:00	令和6年度会計監査	

理事会

回数	日時	議題	備考
第124回	令和7年4月1日 議決省略	【議決事項】 第37回評議員会の開催について	
第125回	令和7年6月4日 18:30～20:15	<p>【議決事項】</p> <p>第1号議案 契約職員就業規程の改定について</p> <p>第2号議案 経理規程の改定について</p> <p>第3号議案 障害者支援施設希望の郷運営規程の改定について</p> <p>第4号議案 短期入所事業所希望の郷運営規程の改定について</p> <p>第5号議案 はんど運営規程の改定について</p> <p>第6号議案 はんど自立生活援助事業運営規程の改定について</p> <p>第7号議案 令和6年度事業報告(案)について</p> <p>第8号議案 設備等整備積立金の積み立てについて</p> <p>第9号議案 工賃変動積立金の積み立てについて</p> <p>第10号議案 令和6年度決算報告(案)について</p> <p>第11号議案 理事選任(案)について</p> <p>第12号議案 監事選任(案)について</p> <p>第13号議案 第38回評議員会の開催について</p> <p>【報告事項】</p> <p>第1号報告 令和6年度監事監査報告について</p> <p>第2号報告 財務会計に関する事務処理支援体制の向上に対する支援業務に関する報告について</p> <p>第3号報告 社会福祉法第45条の14第9項で準用する一般社団法人及び一般社団法人に関する法律第96条及び定款第26条第2項の規定に基づく理事会の議決省略の結果について(第124回理事会)</p> <p>第4号報告 評議員の選任について</p> <p>第5号報告 理事長業務執行事項について</p> <p>第6号報告 業務執行理事業務執行事項について</p> <p>第7号報告 理事運営会議の実施状況について</p>	評議員会に議案提出 評議員会に議案提出 評議員会に議案提出
第126回	令和7年6月19日 20:00～20:20	<p>【議決事項】</p> <p>第1号議案 理事長選任について</p> <p>第2号議案 業務執行理事選任について</p> <p>第3号議案 評議員選任・解任委員会の選任について</p> <p>第4号議案 第三者委員の選任について</p> <p>第5号議案 共同募金施設臨時費受配要望について</p>	
第127回	令和7年7月10日 議決省略	【議決事項】 第1号議案 第三者委員の選任について	
第128回	令和7年9月18日 議決省略	<p>【議決事項】</p> <p>第1号議案 就業規程の改定について</p> <p>第2号議案 契約職員就業規程の改定について</p> <p>第3号議案 パート職員就業規程の改定について</p>	



評議員会

回数	日程	予定議題	備考
第37回	令和7年4月22日 議決省略	【議決事項】 第1号議案 役員等報酬の支給について 第2号議案 定款の変更について 第3号議案 役員等報酬規程の改定について	臨時評議員会
第38回	令和7年6月19日 18:30～19:40	【議決事項】 第1号議案 令和6年度決算報告(案)について 第2号議案 理事選任について 第3号議案 監事選任について 【報告事項】 第1号報告 令和6年度事業報告について 第2号報告 令和6年度監事監査報告について 第3号報告 財務会計に関する事務処理支援体制の向上に対する支援業務に関する報告について 第4号報告 社会福祉法第45条の9第10項で準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第194条の規定(評議員会の決議の省略)に基づく議案の結果について(第37回評議員会) 第5号報告 評議員の選任について 第6号報告 理事長業務執行事項について 第7号報告 業務執行理事業務執行事項について 第8号報告 理事運営会議の実施状況について	定時評議員会
第39回	令和8年3月25日 18:30～19:20	【議決事項】 第1号議案 理事の辞任に伴う補欠選任について 【報告事項】 第1号報告 3ヶ年収支計画について 第2号報告 令和8年度事業計画について 第3号報告 令和8年度資金収支予算について 第4号報告 部長職以上の人事について 第5号報告 業務執行理事の辞任について 第6号報告 理事長業務執行事項について 第7号報告 業務執行理事業務執行事項について 第8号報告 理事運営会議の実施状況について 第9号報告 役員賠償責任保険の契約について	臨時評議員会

部署名：第2層生活支援コーディネーター

①地域貢献の視点

重点課題	既存の地域活動の継続支援	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体操やサロン等の通いの場に継続的に参加し、住民との関係性を構築するとともに、見守り機能の強化につなげた。</li> <li>また、地域活動における担い手の状況を把握しながら、関係者間の調整や情報共有を行い、活動の中断防止および住民主体の運営維持に寄与した。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手の高齢化・固定化を踏まえ、複数の担い手による運営体制への移行を支援するとともに、新たな参加者の発掘・育成を進める。</li> </ul>		
重点課題	地域課題の可視化	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通いの場や個別相談を通じて、フレイルの進行、移動支援の課題、孤立化、家族機能の変化等の地域課題を把握した。また、関係機関との連携により、個別課題を支援につなげるとともに、地域全体の課題として整理を行った。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内の活動状況や担い手の分布を整理し、課題の見える化を進めるとともに、関係者間で共有できる仕組みづくりを行う。</li> </ul>		
重点課題	地域拠点づくり	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校跡地活用に関する会議に継続的に参画し、地域住民の意向を踏まえた協議に関与した。また、地域活動（カフェ・サロン等）の調整を通じて、地域資源の活用と住民主体の活動支援を行った。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域拠点の再編に向けた協議を継続し、住民が継続的に関われる場の確保と活用を支援する。</li> </ul>		

②財務の視点

重点課題	地域資源の持続可能性の確保	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体操、サロン、移動支援等の地域活動について、担い手や運営状況を把握しながら関係者間の調整を行い、活動が継続されるよう支援した。特に、担い手の高齢化や役割の偏りといった課題を把握し、持続可能な運営に向けた課題整理を行った。</li> <li>また、通いの場や個別相談を通じて把握した生活課題については、関係機関と連携しながら適切な支援につなげるとともに、必要に応じて法人の介護保険事業等へ接続し、地域での生活継続を支えた。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手の負担軽減や役割分担を進めるとともに、地域課題への対応と法人機能の活用が相互に循環する仕組みづくりを進める。</li> </ul>		

### ③顧客の視点

重点課題	住民の参加機会の確保	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体操、サロン等への継続的な関与により、地域住民の参加機会を維持した。</li> <li>また、一人暮らし男性高齢者など参加につながりにくい層への働きかけを行い、関係性の構築を図った。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加につながりにくい層（男性高齢者・閉じこもり傾向のある方等）へのアプローチを強化し、多様な参加機会の創出を図る。</li> </ul>		
重点課題	安心して参加できる環境づくり	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症のある方や生活習慣に課題のある方の参加が見られる中で、見守りや早期発見の機会につなげた。一方で、住民の理解により参加しにくさが生じる課題も把握し、地域全体での受け止め方の必要性を確認した。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症や生活課題を抱える方も含め、誰もが安心して参加できる環境づくりに向け、住民理解の促進と支え合いの意識醸成を進める。</li> </ul>		
重点課題	生活継続支援の強化	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別相談を通じて、孤立や家族機能の変化により生活継続が困難となるケースを把握し、関係機関と連携して支援につなげた。</li> <li>・早期に課題を把握することで、重度化する前の対応につなげることができた。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活継続が困難となる前の段階で支援につなげる体制を強化し、関係機関との連携による早期対応を推進する。</li> </ul>		

### ④業務プロセスの視点

重点課題	関係機関との連携強化	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア会議や連絡会等に参加し、関係機関との情報共有および連携体制の強化を図った。個別支援と地域支援をつなぐ役割として、課題の共有と対応の方向性の整理を行った。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別支援と地域支援をつなぐ役割を強化し、関係機関との連携体制のさらなる充実を図る。</li> </ul>		
重点課題	地域活動の調整機能	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体操、サロン、カフェ等の活動において、関係者間の調整や情報共有を行い、活動が継続して実施できるよう支援した。</li> <li>・活動の停滞や負担の偏りが生じないように、継続的な関与を行った。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の継続性を確保するため、担い手の状況を踏まえた調整機能の強化を図る。</li> </ul>		
重点課題	地域課題共有プロセス	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な関わりの中で把握した課題を整理し、関係機関と共有した。</li> <li>・個別課題を地域課題として捉え直し、支援の方向性の検討につなげた。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・把握した課題を地域全体で共有できる仕組みづくりを進め、支援の方向性を共有できる体制を整える。</li> </ul>		

### ⑤学習と成長の視点

重点課題	専門性の向上	事業判定	継続
実施状況	・研修参加を通じて、地域支援に活かした。		
次年度に向けて	・研修で得た知識を地域支援に還元し、実践の質の向上を図る。		
重点課題	人材育成	事業判定	継続
実施状況	・ソーシャルワーク実習の受け入れを行い、地域実践の理解促進と人材育成に取り組んだ。		
次年度に向けて	・実習受け入れを継続し、地域実践を通じた人材育成に取り組む。		

部署名：障害者施設支援部

①地域貢献の視点

重点課題	8050 問題に対応するサービス確立	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加西市自立支援協議会に参加し、状況把握と情報収集を行った。緊急時短期入所空床確保事業など家族の高齢化や急病等による短期入所等の利用に対応したが、緊急的な状況への一時的な対応にとどまることが多かった。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用が長期にわたることも多く、現状の受け入れでは限界があるが、引き続き短期入所等の事業を継続し、家族のニーズに応じていく。根本的な課題解決には新たな受け皿となる事業を準備していく。</li> </ul>		
重点課題	大学や企業との協力関係の構築	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学との交渉の機会をもつことができず、施設内でのサークル活動等に関して検討できていない。</li> <li>・企業と協働での商品開発については、大浦フーズと「みのすけ」の製造販売の流れをつくることができ、THREE-P において試作とイベント販売を実施することができた。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所内で学生が取り組める内容を考え、大学と交渉し、活動につなげていく必要がある。まずは試行的な受け入れ等を模索していく。</li> <li>・THREE-P と連携し、イベント等において「みのすけ」を販売する機会を調整していく。</li> </ul>		
重点課題	短期入所事業（緊急時事業を含む）の見直し	事業判定	見直し
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状での施設設備に合わせ、年度当初に定員を 8 名から 6 名に変更した。</li> <li>・加西市自立支援協議会にて緊急時の定義が定まった。あんしん暮らし支援連絡会では、事業の進捗状況を共有し、適切な事業運営を確認しながら進めることができた。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時短期入所空床確保事業を推進していくため 1 床を確保していく必要があることから、次年度は事業を見直し、重点課題を「緊急時短期入所空床確保事業の推進」に変更する。</li> </ul>		

②財務の視点

重点課題	法人本部と連携し状況に応じた人材確保	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人本部と定期的な情報交換を行い、計画的に人材確保を行った。休職職員の補填は派遣職員とした。技能実習生の配置が予定より遅れ、来年度に持ち越しとなった。</li> <li>・人件費率は 60% を下回っており、法人全体の経営を考えてバランスを取った。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・退職、休職職員が出た場合は法人本部と連携し、人材確保を進めていく。そのため引き続き法人本部と定期的な情報交換を行っていく。</li> </ul>		

重点課題	希望の郷建て替えに向けた定員や職員配置、支援体制等の検討	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当初生活介護事業の定員変更を予定していたが、従たる事業所を開設し、活動の場を広げていく方向に計画を修正した。</li> <li>・従たる事業所開設に向け、検討会を開催し、1月から段階的に試行を開始した。</li> <li>・各部署（本館、虹の家、療育の家）の職員配置の見直しを行ったが、休職職員が増え、また従たる事業所の職員配置を考える必要が生じたことから、変更できなかった。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従たる事業所を軌道にのせるため、試行状況を踏まえ本格稼働に向けて進めていく。</li> <li>・8050問題を根本的に解決する受け皿の一つとしてグループホームの設置を検討する。</li> <li>・希望の郷建て替えに向けた収支改善方策を検討する。</li> </ul>		
重点課題	法人内の各事業所と連携し、実習生の受け入れを人材確保につなげる	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理事運営会議等を経て法人内での調整を終了し、ソーシャルワーク実習は相談支援部、保育実習は児童支援部が窓口となった。法人全体で実習生を計画的に受け入れ、人材確保につなげる流れをつくることができた。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習依頼を受けて実習生を受け入れ、郷での取り組みを知ってもらうことで人材確保や大学との関係強化に努めていく。</li> </ul>		

### ③顧客の視点

重点課題	事故等の再発防止、虐待防止の取り組みの透明化と地域に向けた発表の機会の創設	事業判定	見直し
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会の取り組みについては、地域連携推進会議で説明することとした。会議を通して、施設の状況等を報告し、透明化を図ることで地域の方々に施設を知ってもらう機会となった。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携推進会議を実効ある会議体にしていく必要があることから、次年度は事業を見直し、重点課題を「地域連携推進会議の推進」に変更する。</li> </ul>		
重点課題	重度化、高齢化に対応するチーム支援の確立	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象となる利用者については、医療機関との相談や受診等を行い、具体的な支援に結び付けた。階段への手すりの設置や中庭出入口へのスロープ設置等、設備面の充実を図った。シャワー室の改修について助成金の申請を行い、次年度に持ち越している。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別支援計画のモニタリング等を通じ、該当する利用者の状況の把握を行い、ソフト面、ハード面から検討を進め、個別支援計画等への反映等を行うとともに可能な範囲でハード面の整備（2階居室の洋室化等）を進めていく。</li> </ul>		

<b>重点課題</b>	<b>生きがいや楽しみがもてる余暇の充実</b>	<b>事業判定</b>	<b>継続</b>
<b>実施状況</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動支援委員会や個別支援計画会議、支援会議等で余暇活動について検討を進め、実践として個別での外出や買い物、喫茶の機会を増やしていった。定期的に利用者の要望等を聞く機会をもち、その内容を企画に反映させることで、利用者から「楽しかった」「また行きたい」と意見が出ていた。</li> </ul>		
<b>次年度に向けて</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動支援委員会や個別支援計画会議等で利用者からニーズを吸い上げ、余暇の幅を広げられるよう計画的に取り組んでいく。</li> </ul>		
<b>重点課題</b>	<b>作業活動の再編</b>	<b>事業判定</b>	<b>継続</b>
<b>実施状況</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>異常な猛暑のためリンドウ栽培はほとんど出荷できなかった。夏以降の水耕栽培を停止し、活動棟での活動に転換した。糶摺り作業は地域ニーズに対応し依頼量の増に繋がった。活動棟ではペットボトルボウリングが好評で大会を2回開催して大いに盛り上がった。職員が創意工夫して取り組めるよう、日勤帯勤務の職員を軸に企画実施することで充実を図ることができた。</li> </ul>		
<b>次年度に向けて</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動支援委員会を中心に活動棟や農耕作業を見直し、活動継続に向け、計画を立てて取り組みを進めていく。</li> </ul>		
<b>重点課題</b>	<b>希望の郷（本館、虹の家、療育の家）再編に向けた会議の設置</b>	<b>事業判定</b>	<b>継続</b>
<b>実施状況</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>従たる事業所開設に向けた検討と並行して議論を進めたが結論は出ていない。利用者の重度高齢化により手厚い支援が必要となっており、各部署で職員の増員が求められている。設備面では老朽化による改修が頻発しており、予定外の工事が必要となった。虹の家はウッドデッキが朽ちており撤去した。計画的に改修するべきであるが、目の前の対応に追われる状況になってしまった。</li> </ul>		
<b>次年度に向けて</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>郷の組織体制及び会議体制の見直しにより新たな体制のもとで希望の郷の再編に向けた検討、従たる事業所の運営及び進捗管理を行っていく。</li> </ul>		
<b>重点課題</b>	<b>施設入所支援の充実</b>	<b>事業判定</b>	<b>継続</b>
<b>実施状況</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>土日に職員を増員し、療育の家での安全確保と支援充実を図ったが、休職職員が増えた為、元の状態に戻した。</li> </ul>		
<b>次年度に向けて</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>余暇等を含め支援ができるよう、新たな体制のもとで夜間や土日の職員配置や支援体制の見直しを行う。</li> </ul>		
<b>重点課題</b>	<b>ボランティアや実習生等の積極的な受け入れ</b>	<b>事業判定</b>	<b>継続</b>
<b>実施状況</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習依頼に合わせて受け入れを行った。</li> <li>移動動物園や外部からのイベントを調整し、利用者が楽しめる機会を設けた。利用者には好評であった。日程の関係でマッサージのボランティアの受け入れ調整ができなかった。</li> </ul>		
<b>次年度に向けて</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>移動動物園については受け入れを行っていく。マッサージのボランティアについては受け入れ調整を行っていく。他のボランティアの開拓を進めていく。</li> </ul>		

#### ④業務プロセスの視点

<b>重点課題</b>	<b>地域行事への積極的な参加</b>	<b>事業判定</b>	<b>継続</b>
<b>実施状況</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・播淡運動会、播淡文化祭、みんなの福祉フェスタに参加した。また、善防公民館まつりや社協まつり、野条町夏まつり、下里ふれあいウォーキングなど、通例行事に参加した。管理職を含めて参加職員の調整を行った。</li> </ul>		
<b>次年度に向けて</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引率職員の調整が難しいが、地域行事への参加は継続する。勤務調整ができるよう早期の情報収集が必要となる。</li> </ul>		
<b>重点課題</b>	<b>支援の統一化を図るためのマニュアル整備</b>	<b>事業判定</b>	<b>継続</b>
<b>実施状況</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営会議で現状のマニュアルを確認し、見直しを行った。療育の家、虹の家に関しては、業務と個別支援を整理することができたが、本館に関しては、勤務に応じたマニュアル作成が難しい部分があったため、新任職員がOJTを通して使用しやすいマニュアルを作成し活用できるよう変更した。また、マニュアル更新時期が定まっていなかったため、毎年4月と9月に運営会議で見直すこととした。</li> </ul>		
<b>次年度に向けて</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き4月と9月にマニュアルを更新し、閲覧できるようにしていくことで活用していけるようにしていく。</li> </ul>		
<b>重点課題</b>	<b>第三者評価を見据えた自己評価の実施</b>	<b>事業判定</b>	<b>継続</b>
<b>実施状況</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1月に管理職対象に自己評価を実施した。施設の現状と課題を確認することはできた。課題をどう進めていくかについては次年度に持ち越している。</li> </ul>		
<b>次年度に向けて</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の現状と課題について検証し、新たな体制のもとで課題の改善策や具体的な取り組みを進めていく。</li> </ul>		
<b>重点課題</b>	<b>BCP 訓練の実施</b>	<b>事業判定</b>	<b>継続</b>
<b>実施状況</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3月に法人主導で災害訓練を実施した。利用者は避難訓練とは違う動きであったが、職員の誘導に合わせて行動することができていた。本部設置の訓練では指示書にそった形で情報共有と対応を行った。訓練をして分かることも多く、BCPの見直しや災害時の備え等を主体的に考える機会となった。</li> <li>・感染症に関するBCP訓練は実施できなかったが、2月から3月に感染症対応検証会を開催し、これまでの感染症対応を一から見直す機会となった。</li> </ul>		
<b>次年度に向けて</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時のBCP訓練について得られた課題や改善策について検討し、次のBCP訓練にかすとともに災害発生時に活用できるようにしていく。</li> <li>・感染症対応検証会の検証結果に基づいて次年度の取り組みを進めていく。感染症のBCP訓練に反映させていく。</li> </ul>		
<b>重点課題</b>	<b>計画的な環境整備体制の確立</b>	<b>事業判定</b>	<b>継続</b>
<b>実施状況</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境整備担当者に情報が集約される流れができ、修繕箇所の放置が見られなくなった。建物の老朽化から予定外の修繕をする状況が続いている。</li> </ul>		
<b>次年度に向けて</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境整備委員会を中心に施設内外の環境や修繕箇所の把握、修繕、環境改善に取り組む。大規模修繕については経営推進課と連携し、予算化も含め根本的な改修計画が必要だと思われる。</li> </ul>		

### ⑤学習と成長の視点

重点課題	研修の充実	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人事考課における面談を通じて、各職員に必要な研修受講を調整した。目的を明確にしたことで受講者の意識も高まり有意義な学びの機会となったが、研修内容の共有や業務等にいかす機会を設けることがあまりできなかった。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き面談等の機会を通じ、本人・施設に必要な知識・技能習得のための研修の参加を進めていく。復命書だけでなく会議等の機会を通じて研修での学びを現場に還元していけるような時間を確保していく。</li> </ul>		
重点課題	組織的な OJT 体制の確立	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マニュアル作成し、新人教育に活用した。派遣職員には別途業務マニュアルを作成し、個別に指導した。OJT 担当者の研修や育成の機会を設けるまでに至らず、次年度に持ち越すことになった。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・OJT 担当者の研修や育成を行うとともに、組織として新人教育が進められるような体制づくりを行う。</li> </ul>		
重点課題	スペシャリストとジェネラリストの育成	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員によっては、人事考課の面談等で配置や業務等が話題になることはあるが、人事が伴う内容に触れる面もあり、それ以上の展開を進めることはできていない。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の意識向上や育成体制の充実を図る上で意見聴取は必要。人事考課時の面談の場などを活用し、管理職で意向を把握していく。</li> </ul>		

部署名：相談支援部

①地域貢献の視点

重点課題	支援体制の整備に向けて、県、圏域、市町に提言する。	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域体制整備においては、地域共同支援加算の適切な運用に向け、対象ケースの要件整理や算定プロセスの明確化、記録様式（会議記録・役割分担表・支援経過記録等）の整備を行い、5市協議会において提案・共有を行った。あわせて、やすらぎの実践事例をもとに、相談受付から支援導入、多機関連携による支援展開までの一連の流れを可視化し、協議会における事例検討が具体的かつ実践的に行える体制づくりを推進した。これにより、制度理解の促進と現場での活用イメージの共有につなげた。</li> <li>また、早期から切れ目のない支援体制の構築を目的として、多可町において全国初となる「8歳児発達相談」を提案した。対象児の抽出方法（学校・健診等との連携）や相談実施体制（相談支援専門員・心理職・教育関係者の関与）、実施後のフォロー体制の方向性について整理し、町内協議会および関係機関と調整を進めるなど、次年度実施に向けた基盤整備を行った。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域共同支援加算の運用については、協議会や実務者会議等を通じた継続的な周知に加え、実際のケースに基づく実践支援（算定対象の見立て、会議設定支援、記録作成の助言等）を行うことで、各市町における具体的な活用を促進する。あわせて、活用事例については様式を統一したうえで蓄積し、協議会において定期的に共有（事例報告・ミニ研修等）することで、継続的な運用と地域課題検討の定着を図る。</li> <li>・協議会運営においては、定期的な事例検討（例：月1回または四半期ごと）を実施し、支援困難ケース等を通じて地域課題の抽出・整理を行うとともに、課題ごとに具体的な対応策（資源開発、役割分担の見直し、連携フローの修正等）を検討し、実装につなげていく。</li> <li>・「8歳児発達相談」については、令和8年8月の実施に向け、町内協議会においてキャッチアップ後のフォロー体制（継続相談の導線、関係機関へのつなぎ、家族支援の位置づけ等）を具体化する。あわせて、相談受付からアセスメント、支援導入、フォローアップまでの一連の流れを整理した支援フロー図を令和7年度末（3月）までに作成し、関係機関への周知・共有を行うことで、円滑な事業開始と運用の定着を図る。さらに、実施後は相談件数や支援移行率等の指標をもとに効果検証を行い、必要に応じて体制の見直しを行う。</li> </ul>		

重点課題	関係機関と連携し、複合課題を抱えたケースに対応し、専門性を発揮する。	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ GSV・BPS 研修や定例ケース検討会議を実施し、事例を通じたアセスメント力や支援方針立案力の向上を図ることで、相談支援専門員の対応力強化につなげた。あわせて、個別調整会議に 73 件参画し、支援方針の整理や関係機関との役割分担の明確化に関する助言を行うとともに、医療・福祉・行政等の多職種連携を推進し、地域における相談支援体制の強化に寄与した。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修やケース検討を通じて得られた知見について、事例集の作成や記録様式の統一、振り返りの仕組みを整備することで組織内での共有・蓄積を図り、個人の力量に依存しない支援体制の構築を進める。あわせて、業務の進捗管理やケースの優先順位付け、担当配置の調整等の業務管理体制を強化し、外部からの依頼に対しても迅速かつ安定的に対応できる体制整備を推進する。</li> </ul>		
重点課題	医療的ケア児等に対する支援体制の整備	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療的ケア児支援連絡会を活用し、医療・福祉・教育・行政等の関係機関における役割整理および連携体制の仕組み化を主導した。あわせて、相談受付から支援導入までの流れや各機関の関与を整理した支援体制フローチャートを作成・周知することで、連携の可視化と共通理解の促進を図った。さらに、圏域内外の先行事例や他市の取組を踏まえた情報共有を行い、広域的なネットワーク構築を進めるとともに、関係職種を対象とした研修テーマの整理や対象者設定等、次年度研修実施に向けた基盤整備を行った。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作成したフローチャートについて、実際の支援場面での活用状況（活用件数、関係機関の関与状況、支援開始までの期間等）を把握・検証する。あわせて、具体的な支援事例を用いたケース検討や研修（初期対応、連携手順、役割分担等）を実施し、関係機関の理解促進と運用の定着を図る。さらに、連絡会を継続的に開催し、課題の共有および見直しを行うことで、実効性のある連携体制の強化と地域全体への展開につなげていく。</li> </ul>		

重点課題	指定特定相談支援事業所間一体的管理運営の推進	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加西市内5事業所による一体的な管理運営を開始し、相談受付や担当者配置の調整、ケース共有の仕組みを整備することで、業務の効率化と経営の安定化を両立した相談支援体制を構築した。あわせて、定例的な情報共有やケース検討を実施し、事業所間の連携強化と支援の質の平準化を図った。さらに、当該運営モデルについて圏域内の関係機関へ情報発信を行い、広域的な体制整備の推進につなげた。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定例会議（運営会議・ケース検討会議）を継続し、役割分担の明確化および情報共有の精度向上を図る。あわせて、支援困難ケースに対する複数事業所での共同対応（同行支援、合同ケース会議等）を強化するとともに、OJT や事例検討を通じた人材育成の仕組み化を進める。さらに、相談件数や対応時間、支援困難ケースの対応状況等の指標を用いて取組効果の可視化を行い、持続可能で実効性のある相談支援体制のさらなる充実につなげていく。</li> </ul>		
重点課題	8050 問題の理解促進及び人材育成	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひきこもり、8050 問題に関する研修および講師派遣を実施し、延べ約 450 名（行政職員、相談支援専門員、福祉・医療関係者、地域住民等）が参加した。内容としては、当事者・家族支援の視点、早期発見・関係構築の手法、複合的課題への対応、多機関連携の進め方等をテーマに実施した。市内外に加え、県および全国規模での発信を行うことで、支援者の理解促進と対応力向上を図るとともに、地域支援体制の強化につなげた。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修内容について、テーマ別（初期対応、家族支援、多機関連携等）に整理・体系化を行い、対象者（支援者・行政・地域住民）ごとに段階的な研修を計画的に実施する。あわせて、協議会等を活用し、実際の支援事例の共有や検討の場を設けることで、多機関連携の強化と実践力の向上を図るとともに、取組の成果を可視化し地域全体への展開につなげていく。</li> </ul>		

## ②財務の視点

重点課題	自立生活援助事業の利用者確保	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象利用者の有無について、定例会議（月1回等）において継続的に確認を行い、該当ケースの発生状況や相談動向の把握に努めた。あわせて、対象となり得るケースの抽出視点（リスクの高い世帯、支援導入が滞っているケース等）を共有し、必要時に速やかに対応できるよう関係機関との連絡体制を維持した。これにより、不要な調整や過剰な資源投入を抑制しつつ、対象発生時には初動対応（情報収集、関係機関調整、支援方針の整理等）を迅速に行える体制を確保した。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な状況確認を継続するとともに、対象ケースの発生頻度や相談内容の傾向を分析し、事業の必要性や実施規模の妥当性を検証する。あわせて、対象発生時の対応手順（初動対応の役割分担、関係機関への連絡フロー、会議開催までの流れ等）を明確化・共有することで、迅速かつ的確な支援につなげる体制を維持する。さらに、実際に対応した事例については振り返りを行い、対応プロセスや課題を整理・蓄積することで、事業の継続・見直しの判断材料とし、必要に応じて運用の改善を図る。</li> </ul>		
重点課題	計画相談での加算獲得徹底	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>高次脳機能障害支援者研修を受講し、必要な要件を満たす体制を整備したうえで加算算定を開始した。あわせて、対象ケースの把握方法や算定要件の確認手順を整理し、実務における運用ルール（対象判定、記録方法、請求までの流れ）を明確化した。また、他の取得可能な加算についても要件整理および必要書類（個別支援計画、会議記録、同意書等）の整備を行い、チェックリストの作成や請求前確認の仕組みを導入することで、加算算定の漏れ防止と収益基盤の安定化を図った。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>加算取得に必要な研修受講者数および資格保有状況を一覧化し、更新時期や異動等も見据えた人員管理を行うとともに、計画的な研修受講（年次計画の策定、受講優先順位の設定）を進める。これにより、特定職員に依存しない複数名での対応体制（代替要員の確保）を構築し、不測の事態（欠員・休職等）においても安定的に加算算定が継続できる体制を整備する。あわせて、算定状況の定期的な点検（件数・算定率の把握）や内部監査を実施し、運用の適正化と継続的な改善につなげる。</li> </ul>		

重点課題	過不足のない請求業務の徹底	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>請求業務の月内完結を目標に、定例会議等において各ケースの進捗状況（モニタリング実施状況、計画作成の進行、記録整備状況等）を共有し、担当者間での意識統一を図るとともに、業務フローの見直し（締切日の明確化、事前確認の徹底、役割分担の整理）を実施した。利用者の状態変化や緊急対応等により一部遅延が生じたケースはあったものの、事前の進捗把握やフォロー体制の強化により、遅延リスクの低減を図り、安定した請求体制の維持と法人の財務安定に寄与した。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>月遅れが想定されるケースについて、初期段階からの抽出（状態不安定ケース、支援調整に時間を要するケース等）を行い、進捗管理表の活用や定例会議での重点確認により管理を徹底する。あわせて、請求業務に関する標準的な運用手順（スケジュール、記録要件、確認フロー等）を整理・共有し、担当者間でのばらつきを是正することで、組織全体としての処理精度とスピードの向上を図る。さらに、請求内容と支援実態の整合性を定期的に点検し、相談支援の質を前提とした適正な請求運用に関する共通認識を醸成することで、安定した業務遂行と継続的な改善につなげる。</li> </ul>		
重点課題	計画相談件数	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>加西市におけるセルフプラン利用者について、関係機関との調整や計画相談への移行支援を進めた結果、11名から8名へ減少（▲3名）し、適正なサービス利用に向けた体制整備を図った。あわせて、新規19名の受入を行い、計画相談支援の件数確保と稼働率の向上につなげた。</li> <li>やすらぎにおいては、複合課題や支援困難ケースを中心に、月5～15件の新規計画相談に対応し、初期アセスメントや関係機関との調整を重点的に実施した。そのうえで、支援の安定が見込まれるケースについては他事業所へ適切に引き継ぐことで、受入と調整の両立を図り、全体として安定的な運営を行った。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規計画相談の受入にあたり、優先的に対応すべきケース（複合課題、緊急性の高いケース、制度利用が未整理のケース等）の基準や対応範囲を明確化するとともに、初期対応から他事業所への引き継ぎまでの標準的な運用手順（アセスメント項目、引き継ぎ時期・方法、情報共有様式等）を整理する。</li> <li>あわせて、他事業所との役割分担を協議会や実務者会議等で共有し、受入調整や引き継ぎを円滑に行う体制を構築することで、地域全体での受入機能の強化を図る。さらに、業務手順の見直し（進捗管理、記録整備、会議運営の効率化等）を進めることで、委託業務および基幹相談支援センターとしての機能（困難ケース対応、地域調整機能）を優先した効率的かつ実効性の高い運営につなげていく。</li> </ul>		

### ③顧客の視点

重点課題	ひきこもり支援の充実	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コムサロン 21 との連携により、ひきこもり支援に関する専門的知見（アセスメント手法、関わり方の段階設定、家族支援の視点等）を活用し、地域における支援体制の整備を進めた。具体的には、個別ケースにおける助言やケース検討への参画を通じて支援方針の精度向上を図るとともに、支援者が抱える課題の整理や対応方法の共有を行った。これにより、長期化・複雑化しやすいひきこもりケースに対する対応力の向上と、関係機関間での連携の強化につなげた。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コムサロン 21 と協働し、支援者向け研修や事例検討会（初期対応、関係構築、家族支援、アウトリーチ手法等）を計画的に実施することで、地域全体のスキル向上を図る。あわせて、長期支援を前提とした関わり方の継続性を確保するため、支援経過の共有方法や役割分担の整理、定期的なフォロー体制（ケース会議・振り返り）の仕組み化を進める。</li> <li>さらに、市町間での情報共有や広域的な事例共有の場を設けることで、対応ノウハウの蓄積と横展開を図り、地域差の少ない支援体制の構築につなげる。これらの取組を通じて、継続的かつ質の高いひきこもり支援の確保と体制の安定化を目指す。</li> </ul>		
重点課題	個別支援の充実	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修および SV を継続的に実施するとともに、個別面談やケース会議を通じて各職員の実践状況（アセスメント、支援方針、関係機関連携の状況等）を把握し、具体的な助言を行うことで個別支援の質向上を図った。あわせて、課内検討会を年 8 回実施し、事例検討や振り返りを通じて支援の視点や対応方法の共有を行うとともに、経験年数や力量に応じた役割付与やフォローを行うことで、段階的な人材育成と組織としての対応力強化につなげた。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コムサロン 21 と協働し、支援者向け研修や事例検討会（初期対応、関係構築、家族支援、アウトリーチ手法等）を計画的に実施することで、地域全体のスキル向上を図る。あわせて、長期支援を前提とした関わり方の継続性を確保するため、支援経過の共有方法や役割分担の整理、定期的なフォロー体制（ケース会議・振り返り）の仕組み化を進める。</li> <li>さらに、市町間での情報共有や広域的な事例共有の場を設けることで、対応ノウハウの蓄積と横展開を図り、地域差の少ない支援体制の構築につなげる。これらの取組を通じて、継続的かつ質の高いひきこもり支援の確保と体制の安定化を目指す。</li> </ul>		

重点課題	医療的ケア児等への対応	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療的ケアが必要なケースについて、関係機関が参集する会議（個別支援会議、ケース調整会議等）において、医療的ケア児等コーディネーターが必ず参加するよう事前調整を行い、個別ケースでの助言や関係機関間の調整を通じて役割の具体化を図った。あわせて、医療的ケア児等連絡会においてケース共有や対応事例の報告を行うことで、コーディネーターの機能（全体調整、役割分担の整理、医療と福祉の橋渡し等）について関係機関の理解促進を図り、役割認識の浸透につなげた。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療的ケア児等コーディネーターとしての役割を十分に発揮できるよう、個別ケースへの関与を通じて、医療・福祉・教育等の関係機関間の調整機能（役割分担の整理、支援方針の統一、情報共有の円滑化等）を強化する。あわせて、関係機関との連携の中で把握した地域課題（受入先不足、移行期支援の不足、家族負担の集中等）について整理・蓄積し、構造的な課題として可視化する。</li> <li>さらに、医療的ケア児等連絡会を活用し、個別事例から抽出した課題を共有するとともに、課題ごとに対応策（役割分担の見直し、支援フローの改善、社会資源の活用・開発等）を検討・実行していく体制を構築する。具体的には、テーマ設定による検討（例：在宅支援体制、就学・進学時の支援、レスパイトの確保等）や関係機関による実務レベルでの調整を進め、地域全体としての支援力向上につなげる。</li> <li>これらの取組を通じて、コーディネーターが個別支援と地域づくりの双方を担う中核的役割を果たし、医療的ケア児等が安心して地域生活を継続できる支援体制の強化を図る。</li> </ul>		

#### ④業務プロセスの視点

重点課題	業務の効率化、時間外勤務の削減	事業判定	継続
実施状況	<p>・勤務時間内での業務完結に向け、各職員の時間外勤務の状況を定期的に把握するとともに、業務の進め方や優先順位に関する課題（業務の集中、期限設定の曖昧さ等）について、会議等を通じて全体での共有を行った。あわせて、委託業務や基幹業務に関する負担状況について、役職者を含めた会議において情報共有と課題整理を行い、業務の偏りや過重負担の実態把握を進めた。</p> <p>これらの取組を通じて、時間外勤務の発生要因や業務配分上の課題の明確化を図り、業務効率化および持続可能な運営体制の検討に向けた基礎的な整理を行った。</p>		
次年度に向けて	<p>・日常業務の質を維持しつつ、業務内容の棚卸しを行い、優先順位（緊急性・重要度・期限）を明確化したうえで業務整理を進める。あわせて、業務一覧および進捗管理表を活用し、各業務の担当・期限・進行状況を可視化することで、スタッフ間での情報共有と業務の平準化を図り、負担軽減と時間外勤務の削減につなげる。</p> <p>また、1日のスケジュール枠をあらかじめ設定し、来所・訪問・会議の調整を行うとともに、記録作成や事務処理の時間を確実に確保できるよう、組織方針として計画的に運用する。これにより、業務の後ろ倒しや時間外勤務の発生を抑制し、支援の質の担保と安定的な業務遂行につなげる。</p> <p>特に業務が集中する秋～冬期に向けては、年間スケジュールを踏まえた業務配分（繁忙期前の前倒し実施、時期の分散化）を行うとともに、定例会議等での進捗確認を強化し、業務の遅延や偏りを早期に把握・調整することで、計画的かつ効率的な業務運営体制の整備を進める。</p>		
重点課題	相談対応の整理	事業判定	継続
実施状況	<p>・各拠点の役割に応じた目標設定と業務調整を行い、機能分担を明確にした相談支援体制の整備を進めた。やすらぎにおいては、基幹相談支援センターおよび委託相談としての役割を踏まえ、支援困難ケースや地域調整機能に重点を置いた対応を行い、業務の整理と重点化を図った。はんどにおいては、新規利用者19名の受入を行い、初期アセスメントやサービス調整を通じて計画相談支援の安定的な運営につなげた。ランチにおいては、地域移行を見据え、半年～1年前から関係機関との調整や段階的な支援導入（体験利用、関係構築等）を行い、円滑な移行に向けた体制整備を進めた。これらの取組により、拠点ごとの機能を活かした効率的かつ持続可能な相談支援体制の構築を図った。</p>		
次年度に向けて	<p>・やすらぎにおいては、地域課題の把握や支援困難ケースへの対応を通じて地域全体の調整機能を強化し、はんどにおいては、新規受入および計画相談支援の質の向上を図るとともに、必要に応じた他事業所との連携・引き継ぎを進める。ランチにおいては、地域移行に向けた支援計画の標準化（開始時期、支援内容、関係機関連携の流れ等）を図り、計画的かつ円滑な移行支援体制の構築を進める。</p> <p>あわせて、地域支援者への助言や事例共有、研修等を通じて地域全体の支援力の底上げを図るとともに、各拠点における業務の進捗管理や役割分担の徹底により、効率的で安定した運営体制の確立につなげていく。</p>		

重点課題	支援課題が多いケースへの対応力向上	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>代表者会議での報告を継続的に実施し、組織全体での状況把握と意思統一を図った。あわせて、案件の内容に応じて部内ケース会議を開催し、支援方針の整理や対応方法の検討を行うことで、個別支援の質の向上につなげた。</li> <li>また、会議に付議する基準（支援困難ケース、リスクが高いケース、判断を要する案件等）を明確化し、報告・相談の抜け漏れを防ぐ体制を整備した。これにより、早期の課題把握と組織的な対応を可能とし、リスク管理の強化と対応力の向上を図った。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>会議や面談において確認・意見交換すべき事項（支援状況、リスク要因、対応方針、進捗状況等）を整理し、共通の確認項目として明確化することで、情報共有の質と精度の向上を図る。</li> <li>あわせて、定期的なスーパービジョン（SV）および職員面談について、年間計画（実施時期・回数・対象者）を年度当初に設定し、計画的に実施する体制を整える。SVでは事例を通じた支援の振り返りや助言を行い、面談では個々の職員の業務状況や課題の把握を行うことで、早期対応と人材育成の両立を図る。</li> <li>さらに、職員のメンタルヘルスへの配慮として、面談等を通じた心理的負担やストレス状況の把握に加え、業務量や役割の偏りの見直し、相談しやすい職場環境づくりを進める。必要に応じて役職者によるフォローやチーム内での共有を行い、早期の不調把握と対応につなげる。</li> <li>これらの取組を通じて、組織内での情報共有と意思決定の質を高めるとともに、職員が安心して業務に取り組める環境を整備し、安定した支援提供とリスク管理体制のさらなる強化につなげていく。</li> </ul>		

## ⑤学習と成長の視点

重点課題	外部研修参加の確保	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部研修への参加を計画的に行うとともに、研修後は報告書の作成および部内会議での共有を実施し、要点整理力や説明力、意見交換力の向上を図った。あわせて、研修報告書を閲覧可能な形で保管・共有する仕組みを整備し、参加者以外の職員も内容を確認できる体制とした。これにより、研修で得た知識や視点を個人にとどめず、組織全体で共有・蓄積し、支援の質向上につなげる基盤を整備した。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織として優先的に受講すべき研修分野（例：相談支援の専門性向上、制度理解、地域課題対応等）を明確化し、年間の受講計画を策定する。あわせて、業務調整（参加者の配置調整、代替対応の確保等）を行いながら、必要な職員が適切に研修へ参加できる体制を整備する。</li> <li>また、研修後の共有については、報告書の作成に加え、会議での発表やミニ研修の実施等により、内容の理解と定着を図るとともに、実際の支援場面への活用（事例検討での反映、支援方法の見直し等）につなげる。さらに、研修内容や活用状況を定期的に振り返ることで、学びを組織の資産として継続的に蓄積・活用していく。</li> </ul>		
重点課題	研修の実施	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>虐待防止研修（年2回）、BCP研修（年1回）、面接技法研修（年1回）、相談支援体制研修（年1回）を計画的に実施し、制度理解や対応手順の共有、実践的な対応力の向上を図った。あわせて、県規模研修を5回開催（延べ参加者約200名）するとともに、加西ブランチ20周年講演会（参加者65名）を実施し、外部への発信と支援者の学びの機会創出を行った。これらの取組を通じて、職員個々のスキル向上に加え、組織および地域全体の対応力強化につなげた。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>部内研修委員会および関連委員会において年間研修計画（研修テーマ、実施時期、対象者、実施方法等）を策定し、計画的な研修運営を行う。あわせて、各研修後に理解度や実践への活用状況を確認（アンケート、振り返り、事例検討等）し、研修効果の評価と必要な内容の見直しを行うことで、継続的な質の向上を図る。</li> <li>また、県規模研修についても、参加者からのフィードバックや現場での活用状況を定期的に確認し、研修内容の精査やテーマ設定に反映させるとともに、部内での共有やミニ研修等を通じて学びの横展開を進める。これにより、職員の学習機会の充実と組織全体の知識・対応力の底上げを図る。</li> </ul>		

部署名：介護保険部

①地域貢献の視点

重点課題	ふるさと創造会議の常任理事を継続し、地域づくり計画に基づいた、ハーブ園の運営を行う。	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと創造会議に常任理事として毎月出席し、地域課題の共有および連携強化に継続的に参画した。</li> <li>・西在田小学校の閉校イベント、地域の夏祭り、ハーブ園運営等の地域行事に積極的に参加した。</li> <li>・利用者を含む後期高齢者が地域行事へ参加できる機会を創出し、社会参加の促進につながった。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと創造会議に常任理事として継続的に出席し、地域課題の把握と共有を行うとともに、関係機関や地域住民との連携強化を図り、地域全体での支え合い体制の構築に積極的に参画する。</li> <li>・地域住民と協力し、地域行事への参加を継続するとともに、利用者が主体的に関わることができる機会の創出や役割づくりを意識し、社会参加の促進および地域とのつながりの強化を図る。</li> </ul>		
重点課題	地域で後期高齢者が暮らし続けるための基盤づくりを行い利用者に選ばれる事業を実施する。	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日中活動や外出機会を積極的に創出し、利用者同士の関係性維持に配慮した関わりを行うことで、後期高齢者が安心して継続利用できる環境整備に努めた。</li> <li>・後期高齢者が在宅生活を基盤として暮らしを継続できるよう、個々の生活状況に応じた支援を実施した。</li> <li>・泉中学校区を中心とした地域サロンや体操活動へ参加し、地域の後期高齢者の見守りおよび関係づくりに取り組んだ。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後期高齢者が安心してサービスを継続利用できるよう、個々の心身状況や生活環境に応じた支援体制の整備を進めるとともに、利用者同士の関係性や日中活動の充実を図り、居心地の良い環境づくりに取り組む。</li> <li>・後期高齢者が在宅生活を基盤として暮らしを継続できるよう、通い・訪問・泊まりの各サービスを柔軟に組み合わせ、本人および家族の意向を踏まえた切れ目のない支援の提供を行う。</li> <li>・地域のサロンや体操活動への参加を継続し、地域の後期高齢者との関係づくりや見守り機能の強化を図るとともに、地域資源との連携を深め、支え合いの仕組みづくりに寄与する。</li> </ul>		

重点課題	地域密着型事業所との連携やあったか介護相談員等の受け入れを行う	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域密着型サービス連合会に参画し、定例会議や研修会へ継続的に参加した。</li> <li>・あったか介護相談員を積極的に受け入れ、利用者の思いや要望を第三者の視点から把握し、サービス改善につなげた。</li> <li>・ほっとかへんネットと連携し、大学生の実習受入れや研修会の企画に参画した。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域密着型サービス連合会への参加を継続し、定例会議や研修を通じて他事業所との情報共有および連携強化を図るとともに、地域全体のサービスの質の向上に寄与する。</li> <li>・あったか介護相談員の受入れを引き続き積極的に行い、第三者の視点から利用者の思いや要望を把握し、サービス改善および質の向上につなげる。</li> <li>・ほっとかへんネットとの連携を強化し、大学生の実習受入れや研修企画等に積極的に参画することで、地域における人材育成および福祉理解の促進に取り組む。</li> </ul>		

## ②財務の視点

重点課題	認知機能が重度に低下した状態の後期高齢者、パーキンソン病等で介護度の多い人が利用し続けることができるよう既存のサービスを維持する	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知機能の低下が著しい後期高齢者に対し連泊支援を実施し、利用者および家族の安心確保につなげた。</li> <li>・パーキンソン病の利用者に対し、日中は少しの時間ではあるが在宅生活を維持しつつ夜間の連泊支援を行い、生活の継続を支援した。</li> <li>・訪問看護・訪問リハビリテーションと連携し、機能の維持・向上を図ることで、在宅生活の継続およびサービス利用の安定につなげた。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知機能の低下が著しい後期高齢者に対し、安心して在宅生活を継続できるよう連泊支援を適切に活用し、状態に応じた柔軟なサービス提供体制の強化を図る。</li> <li>・パーキンソン病等の進行性疾患を有する利用者については、日中は可能な限り在宅での生活を維持しつつ、夜間の連泊支援を組み合わせることで、本人・家族の負担軽減と生活の継続を支援する。</li> <li>・訪問看護および訪問リハビリテーションとの連携を一層強化し、医療・リハビリの専門的視点を取り入れながら、機能の維持・向上および重度化予防につなげる。</li> <li>・泊り利用のニーズ増加に対応するため、既存サービスの枠にとらわれず、提供体制や運営方法の見直しを含めた新たな事業展開についても検討を進め、持続可能で柔軟なサービス提供体制の構築を目指す。</li> </ul>		

重点課題	人生の最終段階の意思決定支援、医療介護の連携体制の整備を行う	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の人生の最終段階における意向について、日常的な関わりの中で継続的に確認し、その人らしい意思決定を尊重した支援に努めた。</li> <li>・確認した意向についてはケアプランに明記し、職員間で共有することで、支援方針の統一と一貫したケアの提供につなげた。</li> <li>・主治医および訪問看護事業所と連携し、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）を実施することで、医療・介護の両面から本人の意思を尊重した支援体制の構築を図った。（今年度：3名）</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の人生の最終段階における意向について、日常的な関わりの中で継続的に確認し、本人の価値観や希望を尊重した意思決定支援の充実を図る。</li> <li>・確認した意向はケアプランに適切に明記し、職員間および関係職種間で共有することで、支援方針の統一と一貫したケアの提供につなげる。</li> <li>・主治医や訪問看護事業所と連携し、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）を計画的に実施することで、医療と介護が連動した支援体制の強化を図り、人生の最終段階においても本人の意思が尊重される環境づくりを推進する。</li> </ul>		
重点課題	人生の最終段階にある人の新規利用を受け入れる	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は受入れ実績はなかったが、がん末期等の終末期利用者に対する在宅療養支援について、医療機関等との連携体制や職員の対応力の維持に努め、必要時に対応可能な体制を継続した。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで同様、在宅生活の継続を支える生活支援サービスを安定的に提供し、利用者一人ひとりの生活状況やニーズに応じた柔軟な支援体制の充実を図る。</li> <li>・あわせて、ニーズは限定的ではあるものの、がん末期等の終末期にある利用者に対しても、本人および家族の意向を尊重しながら在宅療養を支えるサービス提供を継続する。</li> <li>・そのため、主治医や訪問看護等の医療機関との連携を強化し、必要時に迅速かつ適切に対応できる体制の維持・整備を進め、安心して在宅で最期まで過ごせる環境づくりを推進する。</li> </ul>		

重点課題	職員配置の適正化	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パート職員の定年退職に伴い人員補充を行い、常勤換算では指定基準を満たしたものの、実運用においては人員不足が解消されていない。</li> <li>・そのため、サービス提供の柔軟性確保に向け、勤務帯の再編や職員配置の最適化が必要な状況にある。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模多機能型居宅介護の特性である柔軟なサービス提供に対応できるよう、職員の勤務帯の選択肢を拡充し、時間帯ごとのニーズに応じた人員配置の最適化を図る。</li> <li>・あわせて、利用状況（通い・訪問・泊まり）の変動に応じた勤務帯の調整を行い、効率的かつ安定的なサービス提供体制の構築を目指す。</li> <li>・これにより、職員の業務負担の平準化と働きやすい職場環境の整備を進めるとともに、利用者に対する切れ目のない支援の提供につなげる。</li> </ul>		

### ③顧客の視点

重点課題	医療依存度の高い人の利用を促進し、介護度が高い利用者の継続利用を可能にする	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要介護5のパーキンソン病の利用者に対し、日々の体調変化に留意した健康管理を行い、状態の安定に努めた。</li> <li>・かかりつけ医、訪問看護、訪問リハビリテーションと密に連携し、情報共有と役割分担を図ることで、在宅生活の継続および安定したサービス利用につなげた。</li> <li>・症状の進行や生活状況に応じた支援内容の調整を行い、本人・家族が安心して在宅生活を継続できる体制整備に努めた。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パーキンソン病の利用者に対する健康管理について、引き続き日々の体調変化や症状の進行に留意した観察とケアを行い、状態の安定および少しでも自宅で過ごすことができるよう支援する。</li> <li>・かかりつけ医や訪問看護事業所との連携を強化し、定期的な情報共有と迅速な対応体制の構築を図ることで、医療と介護が一体となった支援の質の向上につなげる。</li> <li>・あわせて、本人および家族の不安軽減にも配慮しながら、安心して療養生活を継続できる支援体制の充実を図る。</li> </ul>		

重点課題	予防から看取りまで長い期間安心して利用できる	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体操や外出、外食等の日中活動を積極的に取り入れ、介護予防の視点を踏まえた支援を行うことで、心身機能の維持および健康状態の安定につなげた。</li> <li>・病気や転倒等により入院となった場合でも、退院後に円滑に在宅生活へ復帰できるよう、利用内容の調整や環境整備、家族への提案を行い、継続した療養支援体制の確保に努めた。</li> <li>・日々の関わりの中で本人の意向を丁寧に確認し、その都度必要な支援内容を個別に調整することで、その人らしい暮らしの継続を支援した。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防対象者に対して、体操や外出、交流活動等の日中活動を計画的に充実させることで、心身機能の維持・向上を図り、健康状態の安定と自立した生活の継続につなげる。</li> <li>・病気や転倒等により入院となった場合でも、退院後に円滑に在宅生活へ復帰できるよう、事前からの情報共有や退院支援を行い、利用内容の調整や生活環境の整備を通じて継続的な療養が可能な体制を構築する。</li> <li>・日々の暮らしの中で本人の意向を継続的に確認し、その都度必要な支援内容を個別に見直すことで、その人らしい生活の維持と満足度の向上を目指した支援を実施する。</li> </ul>		
重点課題	通いでの日中活動の充実	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者アンケートの実施や日々の関わりの中で、利用者一人ひとりの「したい活動」や意向を把握し、可能な範囲で具体的な活動として実施した。</li> <li>・日中活動については、事前に活動カレンダーを作成・提示することで見通しを持てる環境を整え、利用者が主体的に選択・参加できる機会の創出に努めた。</li> <li>・これらの取り組みにより、日中活動への参加意欲の向上と活動内容の充実を図り、生活の活性化につなげた。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者一人ひとりの「したい活動」や興味・関心を日常の関わりや担当者会議などを通じて丁寧に把握し、個別性を重視した活動内容の充実を図る。</li> <li>・あわせて、外出や外食等の機会を積極的に増やし、社会とのつながりや季節感を感じられる活動を取り入れることで、生活の楽しみや意欲の向上につなげる。</li> <li>・これらの取り組みにより、利用者の主体性を引き出し、日中活動の活性化とQOL（生活の質）の向上を目指した支援を推進する。</li> </ul>		

重点課題	買い物や通院を支援し在宅生活の継続に必要な外出・移動支援を充実する	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者一人ひとりのニーズに応じて、日常生活に必要な買い物支援を行い、在宅生活の継続に必要な生活基盤の維持に努めた。</li> <li>・家族の付き添いが困難な場合には通院支援を実施し、受診機会の確保と健康管理の継続につなげた。</li> <li>・通院時には医療機関との情報共有や家族へのフィードバックも行い、安心して在宅生活を送ることができる支援体制の強化を図った。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者一人ひとりの生活状況やニーズに応じて、買い物支援や通院支援を適切に実施し、在宅生活の継続に必要な生活基盤の維持を図る。</li> <li>・特に、家族の支援が困難な場合や独居の利用者に対しては、柔軟な対応を行いながら、受診機会の確保や日常生活の安定につなげる。</li> <li>・また、通院時には医療機関との情報共有や家族へのフィードバックを行い、安心して療養生活を継続できる支援体制の充実を図る。</li> </ul>		
重点課題	個別ニーズに柔軟に対応できる職員の育成	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法定研修および支援に必要な研修内容を年間計画として体系的に整理し、毎月の事業所内研修を継続的に実施した。</li> <li>・職員の希望や課題意識を踏まえ、可能な範囲で協力機関と連携した外部研修への参加機会を確保するとともに、OJT や事業所評価を通じて実践と振り返りを行い、職員一人ひとりの内省および資質向上につなげた。</li> <li>・一方で、日常業務との調整により研修時間の確保が難しい場面もあり、計画的な時間確保や実施方法の工夫が引き続きの課題となっている。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・OJT（事業所内研修）を計画的に実施し、日々の業務の中での学びを振り返る機会を確保することで、職員一人ひとりの内省を促進する。</li> <li>・具体的な支援事例や課題を共有できる場を確保し、実践に即した指導・助言を行うことで、知識・技術の習得および対応力の向上を図る。</li> <li>・これらの取り組みにより、職員個々の資質向上を図るとともに、事業所全体としての支援の質の底上げとサービス提供力の強化につなげる。</li> </ul>		

#### ④業務プロセスの視点

重点課題	人生の最終段階をどこで迎えたいかの意思形成を行う	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の人生の最終段階における意向について、日常的な関わりの中で継続的に確認し、その人らしい意思決定を尊重した支援に努めた。</li> <li>・確認した意向についてはケアプランに明記し、職員間で共有することで、支援方針の統一と一貫したケアの提供につなげた。</li> <li>・主治医および訪問看護事業所と連携し、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）を実施することで、医療・介護の両面から本人の意思を尊重した支援体制の構築を図った。（今年度：3名）</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、本人を中心としたアドバンス・ケア・プランニング（ACP）を計画的に実施し、日常的な関わりの中で価値観や希望を丁寧に確認しながら、その人らしい意思決定を支援する。</li> <li>・本人のみならず家族も含めた話し合いの機会を設けるとともに、主治医や訪問看護等の関係職種と連携し、情報共有と合意形成を図る。</li> <li>・確認された意向については適切に記録・共有し、支援方針に反映させることで、人生の最終段階においても本人の意思が尊重される継続的な支援体制の構築を目指す。</li> </ul>		
重点課題	個別ニーズへの対応	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者に関する情報共有およびサービス提供時の留意事項の周知を目的とした会議を月1回定期的に開催した。</li> <li>・会議では個々の利用者の状態変化や生活状況、支援上の課題等を整理し、職員全員が個別ニーズを的確に把握できる機会を確保した。</li> <li>・また、会議内容を日々のケアに反映することで、支援の考え方の統一性と質の向上につなげ、利用者一人ひとりに応じた適切なサービス提供の実現を図った。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者に関する情報やサービス提供時の留意事項の共有を目的とした会議を、引き続き月1回定期的に実施する。</li> <li>・会議では、利用者一人ひとりの状態変化や生活状況、支援上の課題等を整理し、職員全員が個別ニーズを的確に把握するとともに、対応方法について共通認識を図る。</li> <li>・あわせて、共有した内容を日々のケアに確実に反映させることで、支援の統一性と質の向上を図り、利用者に対するより適切で継続性のあるサービス提供につなげる。</li> </ul>		

重点課題	訪問で利用者のニーズに柔軟に対応ができる職員を育成	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模多機能型居宅介護の特性上、訪問サービスは利用者ごとの個別性が高く、多様なニーズに応じた柔軟な対応が求められることから、後期高齢者の在宅生活を支えるサービス内容について理解を深める必要がある。</li> <li>・そのため、毎月の会議や事業所内研修、OJT の場面を活用し、具体的な支援事例や課題を共有する機会を継続的に確保した。</li> <li>・これにより、職員間での認識の統一と対応力の向上を図り、個別性の高い支援を適切に提供できる体制づくりにつなげた。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、後期高齢者の在宅生活を支えるために必要なサービス内容や支援の在り方について、理解の深化を図る。</li> <li>・日々の支援事例や課題をもとに、会議や研修、OJT の場を活用して知識・技術の共有を行い、個別性の高いニーズに対応できる力の向上に努める。</li> <li>・これにより、利用者一人ひとりの生活状況や心身状態に応じた適切なサービス提供を実現し、在宅生活の継続を支える体制の強化につなげる。</li> </ul>		
重点課題	業務の効率化	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カーザとの連携のもと、清掃業務の効率化および職員の役割分担の見直しを行い、業務の整理と負担の平準化を図った。</li> <li>・あわせて、ケアカルテの活用を促進し、記録業務の効率化と情報共有の迅速化に取り組むことで、業務を勤務時間内に完結できる体制づくりを進めた。</li> <li>・これらの取り組みにより、多くの職員において時間外勤務の削減につながり、業務効率の向上および働きやすい職場環境の整備を図ることができた。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記録業務や清掃、物品管理等の間接業務について見直しを行い、ケアカルテの活用や役割分担の最適化を通じて業務の効率化を図る。</li> <li>・これにより、職員が利用者に関わる時間を確保し、個別ニーズに応じたきめ細やかな直接支援の充実につなげる。</li> <li>・あわせて、業務の標準化と負担の平準化を進めることで、働きやすい職場環境の整備とサービスの質の向上を図る。</li> </ul>		

重点課題	新しいニーズへの対応	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独居利用者の増加に伴い、買い物支援や受診時の付き添いなど日常生活を支える支援が増加している状況にある。</li> <li>・これに対し、家族と随時相談・連携を図りながら、個々の生活状況やニーズに応じた支援内容の調整を行った。</li> <li>・その結果、生活の維持および健康管理の継続につなげ、独居であっても安心して在宅生活を継続できる支援体制の確保に努めた。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・買い物や通院に課題を抱える地域の高齢者に対し、必要な支援が適切に届くようサービスの周知を図り、利用促進につなげる。</li> <li>・生活支援コーディネーターや関係機関と連携し、潜在的なニーズの把握に努めるとともに、個々の生活状況に応じた柔軟な支援内容の提案を行う。</li> <li>・これにより、日常生活の維持および受診機会の確保を支え、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる体制づくりを推進する。</li> </ul>		

### ⑤学習と成長の視点

重点課題	地域ニーズへの対応	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2層生活支援コーディネーターと連携し、地域において潜在化している生活課題や支援ニーズの把握に努めるとともに、必要に応じた支援の検討・対応を行った。</li> <li>・ふるさと創造会議に常任理事として毎月出席し、地域課題の共有や関係機関との情報交換を通じて、地域全体での支え合い体制の強化に継続的に参画した。</li> <li>・西在田小学校の閉校イベントや地域の夏祭り、ハーブ園の運営等、各種地域行事へ積極的に参加し、地域住民との関係づくりおよび交流機会の拡充を図った。</li> <li>・これらの取り組みを通じて、利用者を含む後期高齢者が地域行事へ参加できる機会を創出し、社会参加の促進と生きがいつくりにつなげた。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2層生活支援コーディネーターと継続的に連携し、地域において潜在化している生活課題や支援ニーズの把握に努める。</li> <li>・把握したニーズについては、関係機関や地域住民との情報共有を図りながら、必要に応じた支援の検討および具体的な対応につなげる。</li> <li>・また、地域資源の活用や新たなつながりづくりを進めることで、支援の届きにくい層へのアプローチを強化し、地域全体で支え合う体制の構築を推進する。</li> </ul>		

重点課題	利用者の自己実現をかなえ QOL の向上を目指す	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所評価を実施し、利用者の生活状況やサービス提供の状況を多面的に検証するとともに、QOL（生活の質）の向上に向けた支援内容の評価を行った。</li> <li>・評価結果をもとに、支援方法やサービス内容の見直しを行い、より利用者一人ひとりのニーズに即したケアの提供につなげた。</li> <li>・また、評価内容を職員間で共有することで、支援の質の標準化と継続的なサービス改善に取り組んだ。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き事業所評価を計画的に実施し、利用者の生活状況やサービス提供内容を多面的に検証することで、QOL（生活の質）の向上に向けた支援の妥当性を評価する。</li> <li>・評価結果については職員間で共有し、課題の整理と改善点の明確化を図るとともに、具体的な支援方法やサービス内容の見直しを行う。</li> <li>・これらのプロセスを継続的に実施することで、支援内容のブラッシュアップを図り、利用者一人ひとりに応じた質の高いサービス提供につなげる。</li> </ul>		
重点課題	職員一人一人の専門性を高める	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の会議や事業所内研修、OJT の場面を活用し、具体的な支援事例や課題を共有する機会を継続的に確保した。</li> <li>・これにより、職員間での認識の統一と対応力の向上を図り、個別性の高い支援を適切に提供できる体制づくりにつなげた。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加算算定に必要な法定研修を計画的に実施するとともに、実務に直結する OJT を充実させ、職員が現場で活かせる知識・技術の習得を支援する。</li> <li>・あわせて、職員一人ひとりの経験年数や課題意識、希望に応じた OFF-JT（外部研修）への参加機会を確保し、専門性の向上と視野の拡大を図る。</li> <li>・これらの取り組みを通じて、職員の資質向上と組織全体のサービス提供力の底上げを図り、質の高いケアの実現につなげる。</li> </ul>		

部署名：児童支援部

①地域貢献の視点

重点課題	事業所の周知	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度辺りから姫路市からの利用が増えていたことも鑑みて、姫路市役所にパンフレット等によって周知をおこなった。令和8年度スタート時点でも姫路からの利用者があるため、引き続き姫路市への周知も継続する。令和7年3月末まで担っていたことも支援連絡会の座長を次の方に引き継ぐ事となったが、引き続きこども支援連絡会には参加し、周知を継続する。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年利用に繋がっている理由の中で「現在使っている保護者（または以前使っていた保護者）からの紹介」が増えてきている。顧客の視点で重点課題にあげ続けている「保護者を大切にする」との好循環が想定されるため、行政や関係者への周知以上に、今後現場での保護者との対話、真摯な対応を継続する。</li> </ul>		
重点課題	HPの運用と活用	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月発行している事業所通信、講演会の案内と報告、景色の写真等を継続的にアップしている。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業者にもらった情報をもとに、より「初めてページを見た人」を意識したHPの管理をおこなう。当事業所が重視している保護者支援、アタッチメント、非認知能力を支える関わり、がより伝わりやすい形に変えていく。</li> </ul>		

②財務の視点

重点課題	加西市タイムケアの受託	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続して受託している。高等部卒業により2名の児童が利用を終了した。令和8年4月からは新規で小学部の児童2名、中学部の児童が1名利用を開始した。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加西市の課題の1つである保護者の就労保障の観点からも、市の社会資源としてタイムケア事業はとても重要な存在である。就労保障の現状として、そのサービスの形、利用料金等の観点から放課後等デイサービス事業がその機能をオーバーラップして受けるという状況が増えてきている。就労保障を主な機能として有しているのは学童保育であり、放課後等デイサービスは療育機関であるという役割分担を、今改めて市の中で整理する必要がある、タイムケア事業の運営に大きく関わる議題である。現時点で利用枠はまだあいているため、就労保障という機能をより活用してもらうために、地域福祉課との連携を継続して利用児童を増やしていく。またタイムケア事業の機能のメインが保護者の就労保障とレスパイトであると言え、強度行動障害等に関する理解と技術が必要になるため、各関係機関との連携、職員との連携を重視する。</li> </ul>		

重点課題	児童発達支援の財務的に適正な運営	事業判定	継続											
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度 延べ利用数 2084人 年間利用割合 約88%</li> </ul>													
	延利用者数の推移												(単位:人)	
	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	H26	100	140	154	170	140	160	176	148	148	156	156	123	1,771
	H27	151	143	175	156	156	156	148	150	150	146	145	101	1,777
	H28	126	136	169	154	158	151	158	164	162	178	198	141	1,895
	H29	149	168	198	173	173	189	187	185	181	172	169	145	2,089
	H30	161	193	188	175	168	146	194	191	171	163	162	140	2,052
	H31	182	178	187	211	165	182	201	179	179	174	166	149	2,153
	R2	181	168	215	206	177	190	213	182	172	164	165	177	2,210
	R3	198	170	200	183	186	188	186	187	185	168	168	182	2,201
	R4	185	180	203	187	176	174	173	175	183	172	166	174	2,148
	R5	189	180	198	182	180	177	183	182	169	182	175	178	2,175
	R6	192	180	181	197	163	169	205	187	177	169	150	169	2,139
R7	169	170	176	191	148	177	195	164	173	179	158	184	2,084	
(利用率)	81%	85%	84%	87%	87%	89%	89%	91%	87%	94%	88%	92%	88%	
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>延べ利用数の目標を90%に設定しているため、約2%目標に届かなかった。以前から継続している振替療育とプラス療育は継続して案内しているが、年間の延べ利用数に影響する要因として、それ以外に「前年度の年長児の数」が挙げられる。修了児童が多い年の次年度は新規契約数が多く必要となる。この要因の影響は大きいと同時に操作ができない部分であるが、今後も振替、プラス療育の積極的な案内、複数回利用の案内、事業所の周知等を複合させて延べ利用数の増加につなげる。</li> </ul>													

### ③顧客の視点

重点課題	児童発達はもちろん保護者支援も大切にする	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所アンケート返却32名全て「事業所の支援に満足している」に「はい」の返答であった。連絡帳によるやりとり、直接相談を重視してきたことはこの結果の要因と繋がっていると考える。合わせて、来所時、降所時のインフォーマルなやりとりを職員全員で意識してきたことも好影響していると考え。地域貢献の視点のところでも記したように「保護者から保護者への紹介ケース」が増えていることと合わせて考えると、この結果を継続させることが重要である。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度の結果を受けて、現在の保護者への真摯な対応を継続する。</li> </ul>		

重点課題	保護者と希望者向けの講演会	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和8年2月6日に講演会を実施、48名の参加となった。講演会実施以降、参加してくれた保護者と他事業所の保育士の方から感想を聞かせてもらえる機会があり、「また機会があれば参加したい」「時間が経つのが早かった」「まさにうちの子と照らし合わせて考える事が多かった」等の評価をもらっている。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>講演会の内容は当事業所が重視しているアタッチメントと非認知能力をベースとしたものであり、「地域で協力してこどもを育てる」という観点から、保護者をはじめ多くの人に共有していくべき内容であると考えているため、今後も引き続き適宜実施する。</li> </ul>		

#### ④業務プロセスの視点

重点課題	新規勤怠システム及び請求・記録ソフトの有効活用	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>請求・記録ソフトがケアカルテに変更になったことにより、請求業務は効率化した。</li> <li>ケアコネクト担当者によるソフト利用に関する相談対応も迅速で、以前よりも業務コストは下がっている。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>請求業務での活用は継続する。日常の保護者への連絡帳への活用も考察したことがあるが、保護者から聞く他事業所の連絡帳の評価として、「メールのみのやりとりで、少しそっけなく感じる」「パソコンでテンプレートの様な文章が書かれており、少し寂しく思う」等が聞かれる。「手書きが良い」ということではないが、メリットでもある可能性は考慮すべきであると考えている。</li> </ul>		
重点課題	新規事業運営についての考察	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な進捗はない。実施内容にあげている安定した職員数の確保の課題、少子化による今後の動向等を加味して慎重に進めるべき課題である。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の退職と入職によって児童発達支援に関して職員数6名は維持できているが、児童支援部全体で考えた時に、タイムケア事業における他害行動のある児童の支援等も含めると、現在の状況で新たな事業展開は考えにくい。社会資源として幅を広げることが視野に入れつつも、現在の2つのサービスをより安定させることが先の課題である。</li> </ul>		

#### ⑤学習と成長の視点

重点課題	各職員の研修への参加・研修委員会の活用	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゆたか会研修委員会主催の研修会は、家庭の事情がある職員以外は全員全て参加してきた。今年度は、虐待防止に関して、虐待防止動画を活用した研修も全職員でおこなった。各職員それぞれが自分で必要とする研修にも参加してきた。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続きゆたか会研修委員会主催の研修会は、参加できる全職員が参加する。同様に、虐待防止に関する研修、各職種に係る研修に参加していく。</li> </ul>		

重点課題	安定した職員配置による、療育の質の維持	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度末で保育士1名が退職、令和8年度から保育士1名が入職し、職員数は現状維持となっている。入職した職員はこども園での経験は長いですが、児童発達支援については初めてとなるため、継続的な指導が必要となる。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者評価の結果から、療育の質は維持できていると考える。職員が代わったことにより、改めて支援の質を落とさない療育形態を考える必要はあるが、その際の視点としては現在と同様にアタッチメントと非認知能力をキーワードとして各職員の連携を高めていく。新規職員の能力を最大限発揮してもらうために、時間をかけて丁寧な指導を継続していく。</li> </ul>		

部署名：通所系支援部

①地域貢献の視点

重点課題	土曜・祝日のサービス内容の見直し	事業判定	継続													
実施状況	・11月外出行事（大阪方面）、12月に福祉フェスタ見学、その他絆カフェに参加。															
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	稼働率	
	土	営業日数		1			3			1	2	3			10	50.3
		利用者数		7			18			6	11	17			59	
祝	営業日数		1				1		1			2	1	6	74.1	
	利用者数		6				11		8			15	12	52		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業を中心に活動を実施しながら、余暇支援も取り入れリフレッシュする機会を設けるとともに「行ってみたい」と思えるような活動を提案する。</li> <li>・年間営業予定に合わせて、土日祝日の活動計画を立てる。利用者の意向を取り入れ、出席者増につなげていく。</li> </ul>															

②財務の視点

重点課題	稼働率の向上	事業判定	継続														
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稼働率 令和6年95.5%、令和7年105.3%。前年比10%増となった。</li> <li>・登録利用者も前年より6名増となり、安定して出席されており稼働率が向上した。</li> </ul>																
	全 体	定員 (人)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均	
		登録者数 (人)	17	18	17	17	17	18	18	19	19	20	22	21	223	18.6	
		開所日数 (日)	21	22	21	22	22	21	22	21	22	22	20	22	258	21.5	
		延べ人数 (人)	278	272	252	282	281	245	276	259	258	284	299	339	3,257	271.4	
		1日あたり (人)	13.3	12.4	12.0	11.9	10.5	11.7	12.5	12.3	11.8	12.9	15.0	15.4		12.6	
		新規利用者数 (人)	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1	2	0	6		
		退所数 (人)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2		
		稼働率 (%)	110.7	109.0	100.0	99.2	87.5	97.2	104.5	102.7	98.1	107.5	124.5	128.4		105.3	
		平日稼働率 (%)	110.7	107.9	100.0	99.2	93.4	97.5	104.5	107.4	103.3	117.1	131.4	128.7		108.5	
		施設内	施設内定員 (人)	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144	12.0
			稼働日数 (日)	21	22	21	22	22	21	22	21	22	22	20	22	258	21.5
			延べ人数 (人)	150	185	168	167	160	171	190	187	185	215	227	250	2,259	187.8
			稼働率 (%)	58.5	70.0	65.8	63.2	60.8	67.6	71.9	74.2	70.0	61.4	94.5	94.6		72.8
1日あたり (人)	7.1		8.4	7.9	7.6	7.3	8.1	8.6	8.9	8.4	9.8	11.4	11.4		8.7		
施設外(王子)	施設外定員 (人)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48	4.0		
	稼働日数 (日)	21	20	21	22	17	20	22	16	20	19	18	21	239	19.9		
	延べ人数 (人)	72	87	86	95	71	74	86	72	74	69	72	68	846	78.8		
	稼働率 (%)	85.7	109.7	102.3	107.9	104.4	82.5	97.7	100.0	92.5	90.7	100.0	104.7		98.0		
	1日あたり (人)	3.4	4.4	4.1	4.3	4.2	3.7	3.9	4.0	3.7	3.6	4.0	4.2		4.0		
施設外(その他)	施設外定員 (人)	4												4	4.0		
	稼働日数 (日)	17												17	17.0		
	延べ人数 (人)	57												57	57.0		
	稼働率 (%)	89.8													89.8		
	1日あたり (人)	3.4													3.4		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登録者も増え出席率も向上しているが、作業収入が増えておらず平均工賃が下がっている。稼働率と作業収入のバランスを検討する。</li> <li>・作業場所や在庫及び製品置場が限られており、現状に見合った作業増を検討する。</li> </ul>																

### ③顧客の視点

重点課題	平均工賃の維持	事業判定	継続									
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度実績（平均） 32,113円（前年比 ▲4,855円）。</li> </ul> <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標額</th> <th>実績額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和6年度</td> <td>36,954円</td> <td>36,968円</td> </tr> <tr> <td>令和7年度</td> <td>37,060円</td> <td>32,113円</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>飲食事業営業終了、施設外就労1ヶ所終了により作業収入が減ったこと、利用者が増えたことが原因と思われる。</li> <li>施設内作業の売上は前年より56万円ほど増えているが、利用者数に対しての売り上げのバランスが取れていない状況である。</li> </ul>				目標額	実績額	令和6年度	36,954円	36,968円	令和7年度	37,060円	32,113円
	目標額	実績額										
令和6年度	36,954円	36,968円										
令和7年度	37,060円	32,113円										
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>建屋スペースに見合った新規作業、受注拡大を図り、収入を増やす。</li> <li>「みのすけ」の販路開拓。事業を軌道にのせる。</li> </ul>											
重点課題	昼の送迎体制の確立	事業判定	継続									
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の利用形態（午前のみ、午後のみ）に合わせ、送迎を実施した。</li> <li>職員の出勤状況によって休憩時間の調整が難しい面があったが、時間差で取得する、納品と送迎を兼ねるなどの対応をした。</li> </ul>											
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き送迎を実施し、利用者の状態に合わせた利用ができるようにする。</li> <li>業務と送迎の状況を把握しつつ、検証、改善を図る。</li> </ul>											

### ④業務プロセスの視点

重点課題	就労訓練の強化	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>就労支援に向けたチェックシートを事業所合うようアレンジをし、工賃の評価に活用した。</li> <li>チェックシートを基に、訓練内容、場面設定などを検討中である。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>チェックリストを見直し、修正を行う。</li> <li>チェックリストに基づき、日々の活動の中に訓練要素を取り入れるため、方法や場面設定を作成し実践する。</li> </ul>		
重点課題	工賃支払規程の見直し	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度からの検討課題として、規約や作業の実情に応じた支給形態、評価基準などを工賃検討委員会にて検討した。</li> <li>令和7年9月に規約を改め、10月分より算出方法を変更した。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き検討委員会を開催し、評価基準や評価方法の見直し、又収入に応じた支払い（計算方法）を検討する。</li> </ul>		

重点課題	勤務及び日中の配置動向の調整	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配置について、業務に合わせ適宜配置を調整、変更した。</li> <li>・登録者が増え、送迎ルートを2ルートから3ルートに増やしたことで、職員の出勤時間の調整をした。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員数減の中で効率よく、又柔軟に勤務や配置を調整する。</li> <li>・施設外作業の引率できる職員数を増やし、複数の視点で支援を検討できるようにしていく。</li> </ul>		
重点課題	1階の活用	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飲食事業を廃止し、多目的に使えるスペースとして活用した。</li> <li>・加西市自立支援協議会、研修、アウトリーチ支援、絆カフェなど令和7年度は53回の利用があった。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定の団体に利用が限られていた。地域の方々にも利用してもらえるよう、周知を図る。</li> </ul>		

#### ⑤学習と成長の視点

重点課題	個別支援と就労支援の強化	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部研修3件参加、内部研修6回実施。外部研修で学んだことについては、参加者が講師役として伝達研修を行った。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各研修で職員が講師役となり、プレゼン能力を高め学んだことを共有する。</li> <li>・共有した内容を自施設でどう活かせるかを考え、実践する。</li> </ul>		
重点課題	各作業場に配置可能な人員の育成	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の出勤状態に合わせ配置を変更し、引率や作業に対応できるようにした。</li> <li>・複数の職員が配置可能になることで、施設外作業に新たに取り組む利用者に対して手厚い作業指導ができた。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き出勤、受注等の状況に合わせ配置を調整する。</li> </ul>		

部署名：共同生活援助部

①地域貢献の視点

重点課題	サービスを必要とする利用者と家族が安心して利用できる場所となる	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関、一般の方の見学に対応した。のじぎく特別支援学校在学生は、輝きを利用中の方から話を聞いたことで見学に至っている。卒業後の利用希望があり、医療的ケアと発作時の対応、日常の様子を知るために支援学校で担当教師と看護師に指導をうけた。(4月から週1日の利用を希望している)</li> <li>・北はりま特別支援学校から実習生の受け入れを実施。進路事業所説明会参加にて相談があった方に対して説明を行った。(3名)</li> <li>・事業所の紹介ツールは広報誌、パンフレット等を用いて、利用者の日常を感じて頂けるよう細やかな説明を心がけている。</li> <li>・長期にわたり、サービスの利用を拒まれて引きこもりとなっていた方が、サービスの継続利用に繋がることのできるよう、家庭訪問から開始し、高齢のご両親と連携をとることで段階的に利用日と時間を増やすことができた。(R8年4月から毎日利用)</li> <li>・4月に他施設から大空へ転居した方が、在宅時に比べ著しい痩せ傾向となっていたため、家族から心配の相談があった。看護師、PT、担当者と体重と体力回復に向けて働きかけ、1年かけて体重が回復し家族からも安心できたとの意見があった。 (4月現在、当該利用者の母親の大空入居に向けて準備をすすめている)</li> <li>・12月に家族の急用による時間延長の要望や土曜日営業日の急遽利用依頼に柔軟に対応することができた。このことから、緊急時にサービス対応を必要とする利用者(介護者が高齢親のみ、ひとり親、両親共働き等)に対して延長利用が出来るように計画作成をした。(現在6名)</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校生の実習依頼、関係機関、一般の見学希望に応じる。</li> <li>・大空輝きを紹介するツールを見直す。(動画作成や活動写真集など作成)</li> <li>・利用者と家族のニーズや状況の変化についてアンテナをはり相談支援と共有する。</li> </ul>		

重点課題	地域交流を通じて近隣地域とよりよい関係性を広げていく	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域交流委員会メンバーで各交流先の担当を決めて交流内容や日程の調整を行った。</li> <li>・播磨農業高校との活動内容 花壇の整備や花植えやさつま芋作り、しめ縄作りや折り紙工作を行った。学校の授業でも輝きでの制作活動用の材料づくりを組み込み、生徒が作成した折り紙工作を寄贈された。</li> <li>・北条高校、こども園との活動内容 各シーズン2回ずつ交流を行った。こども園とのプレゼント交換は定着し、北条高校とは、学校祭に参加し、クリスマスリース作りを行った。</li> <li>・鶉野上町との活動内容 秋祭りでの出店やステージ参加など地域の方々と繋がる貴重な機会であるため、毎年担当する職員を変えて参加している。勤務外でも立ち寄る職員も増え、地域交流について体感できる機会となっている。11月に「地域連携推進会議」を行い、地域代表者に施設内の見学を実施し、知ってもらう機会となった。</li> <li>・アンダンテとの活動内容 入居利用者が定期的に通う教会のボランティアグループで、普段から外出時のサポートをしてくれている。クリスマス会で讃美歌コンサートを行った。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在続いている交流を大切に継続していく。</li> <li>・花壇整備について計画する。</li> </ul>		

## ②財務の視点

重点課題	稼働率の向上（輝き）	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定員数に達した利用状況であったが、年度末に利用者2名が亡くなり、2名が他施設に入所となった。（空き枠：0→13枠）</li> <li>・契約中の利用者から利用日数を増やす希望がある。</li> <li>・のじぎく特別支援学校在学生の家族から契約希望がある。</li> <li>・相談支援事業所から利用相談があるが多動や他害等の行動の有無等の状態を確認しながら見学、利用については慎重に話をすすめることとしている。</li> <li>・1月から土曜日営業日の通所利用者を2名から3名とした。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各曜日の利用者状況をみながら定員達成を目指す。</li> <li>・土曜日営業日の通所利用者3名定着を目標とする。</li> <li>・日中活動の内容を広げて利用者満足度の向上を目指す。</li> </ul>		

重点課題	定員数維持（大空）	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月に新規入居者1名により定員に達したが、3月末に1名が入院、加療したが退院後に亡くなられ13名となった。</li> <li>・大空入居を希望していた通所利用者（2名）が3月中旬に他施設入所となった。</li> <li>・7月に入院し、8月に退院した利用者が長期臥床による身体機能低下が顕著であったが看護師、PT、支援員のチーム支援により体重の回復ができ身体機能も向上した。</li> <li>・入院した2名以外の入居利用者は体調変化なく過ごせた。</li> <li>・空床の入居者調整を開始した。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空床の新規入居準備をすすめる。</li> <li>・体調管理、感染予防対策、活動による身体機能の維持など健康的な生活支援を行う。</li> <li>・なごみやくつろぎ利用者との交流の機会を設けて他利用者との関係性を広げる。</li> </ul>		
重点課題	入居者数維持（なごみ）	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外泊は殆どなく利用状況は安定している。</li> <li>・年齢に伴う身体機能・認知機能の低下から支援を必要とする生活場面が増えている。</li> <li>・利用者の加齢とともに階段昇降や玄関上がり框、入浴動作など自立動作困難なことが増えていくことが予測できる。</li> <li>・設備の老朽化（風呂場）により快適性と安全性が保てない。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の身体状況等のアセスメントを行い適した支援の見直しを相談支援と行う。</li> <li>・屋内環境や設備の点検、整備を行う。</li> <li>・大空やくつろぎとの交流の機会を設け職員や他利用者との関係性を広げる。</li> </ul>		
重点課題	入居者数維持（くつろぎ）	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定員に達しているが週末や長期休暇中は帰省する利用者が多い。</li> <li>・入居者4人での生活は安定しておりトラブルもない。</li> <li>・夜間支援体制を変更したことで利用者に混乱はないが保護者から不安の声がある。</li> <li>・世話人1名が中心となり、他シルバー人材センターからの派遣にて支援を行っている。</li> <li>・管理者とサビ管以外の職員との関りが無く支援体制の弱さがあった。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者、家族との関係性を築き、夜間支援体制等くつろぎ支援についての安心を得る。</li> <li>・入居者4人のくつろぎでの生活を知り、世話人と連携してよりよい支援体制を築く。</li> <li>・週末に合同行事など計画実施し、週末の帰省回数減少にむけて働きかける。</li> <li>・大空やなごみとの交流機会を設け職員や他利用者との関係性を広げる。</li> </ul>		
重点課題	現在の加算を維持、新たな加算取得にむけて検証する	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重度加算・・・大空：6名→現在5名、輝き：6名</li> <li>・リハビリ加算・・・4月時11名→現在13名</li> <li>・延長支援加算の申請を行った利用者：現在6名</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに取得可能な加算について情報を取得する。</li> </ul>		

<b>重点課題</b>	<b>現在の加算を維持、新たな加算取得にむけて検証する</b>	<b>事業判定</b>	<b>継続</b>
<b>実施状況</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重度加算・・・大空：6名→現在5名、輝き：6名</li> <li>・リハビリ加算・・・4月時11名→現在13名</li> <li>・延長支援加算の申請を行った利用者：現在6名</li> </ul>		
<b>次年度に向けて</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに取得可能な加算について情報を取得する。</li> </ul>		
<b>重点課題</b>	<b>職員一人一人のコスト意識を高め、支出を削減する</b>	<b>事業判定</b>	<b>継続</b>
<b>実施状況</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間外勤務時間削減について職員の意識づけを行っている。</li> <li>・光熱水費について電気、エアコンなど不要過剰な使用に注意を呼び掛けている。</li> <li>・ペーパーレス、コピー時の裏紙使用を意識づけている。</li> <li>・事務用品、制作活動材料など在庫数の確認や保管場所の整理を行い過剰な購入を控えるようにしている。</li> <li>・オムツ類について過剰に在庫を抱えないように計画的な購入をおこなっている。</li> <li>・物品管理と整理整頓、機材や物品の扱いに注意するよう呼び掛けている。</li> </ul>		
<b>次年度に向けて</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設内の各部屋、収納場所の整理整頓を行い、文具など消耗品類の在庫確認と保管場所等の見直しを行う。</li> <li>・電気やエアコンの消し忘れ等がないように常に意識することを伝える。</li> <li>・時間外勤務削減に向けて定時退勤ができるように意識づけと協力を続ける。</li> </ul>		
<b>重点課題</b>	<b>日中サービス支援型 GH についての収支試算</b>	<b>事業判定</b>	<b>継続</b>
<b>実施状況</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配置要件と必要な人件費を踏まえて試算したが、収入は増えるが増員した人件費に見合わないとの結果になった。</li> <li>・短期入所用の居室確保、職員増員、日中サービス支援型の入居者が同一建物内の生活介護を利用が可能か等の課題がある。</li> </ul>		
<b>次年度に向けて</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状のままで事業をすすめる。</li> </ul>		

### ③顧客の視点

重点課題	リハビリによる身体機能維持及び向上	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者個別のストレッチやマッサージのメニューを担当者とPTが作成し、PTの指導をうけてストレッチを実施している。</li> <li>・リハビリ以外で支援員によるストレッチやマッサージの機会が増えて活動の充実、身体機能維持や増進に繋がっている。利用者の表情も良い。</li> <li>・リハビリ実施計画書の説明でPTと家族が話す機会ができ、高評価を得ている。自宅での様子や生活において大切にしたい身体機能を知ることによってニーズに応じたリハビリメニューにも繋がっている。</li> <li>・通所者が通う他の事業所のセラピストとの情報共有も行うことで統一したリハビリを実施している。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族や他事業所との関係性を深め、より利用者のニーズに応じたリハビリを考案、実施していく。</li> <li>・ストレッチや介護技術の指導を行い支援員のスキルアップや事故防止に繋げる。</li> </ul>		
重点課題	生活支援・個別対応の充実と家族の満足度の向上	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族見学会（2年目）を実施した。通所利用者の家族参加は多いが入居利用者の家族参加は加西市の2家族、西脇市の1家族のみであった。</li> <li>・満足度調査を3月に実施した。回答率は入居者78.6%、通所者76.9%だった。</li> <li>・個別支援計画書説明時に、モニタリング期間中の様子をより具体的にイメージしてもらうことを目的に、ケアカルテの記録（写真と日中活動記録）もあわせて提出した。「施設での様子がわかりやすい」「家では見られない自然な表情が見られる」「安心できる」との意見をもらった。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族参加行事を日中活動委員会で検討する。</li> </ul>		

### ④業務プロセスの視点

重点課題	事故防止に向けたヒヤリハット、事故内容の検証と事故防止対策の実施	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒヤリハットと事故について、全ての内容と対策案を支援会議で共有した。会議で新たに出た対策案については即日、準備と実行することとしている。</li> <li>・薬についてのヒヤリハットと事故が多くあったことから「マニュアルに沿って業務を遂行する」ことを徹底するよう働きかけている。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月のヒヤリハットと事故集計を継続する。</li> <li>・各委員会でマニュアルの見直しを行う。</li> </ul>		

重点課題	支援内容の向上と個別対応の統一	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援の見直しと変更についてはサビ管と担当者を中心に専門職や他支援員とチーム全体で検討している。</li> <li>・見直し回数は大空 70 件、輝き 105 件だった。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の状況と状態変化に沿って個別支援の見直しを続けていく。</li> <li>・相談支援との情報共有を密にする。</li> <li>・福祉用具や地域資源について新しい情報を得ることも大切にする。</li> </ul>		
重点課題	業務の効率化	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月からハナスト（音声入力システム）の導入により記録が円滑となり記録時間が短縮された。職員間の連絡にも活用できるが、通信状況に不具合が生じる場所があるため今も PHS が主な連絡手段となっている。</li> <li>・ケアカルテ導入から3年経過し、操作にも慣れたため記録の内容が充実し、量が増えている。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハナスト活用をさらに充実させる。</li> <li>・個別支援シートその他のケアカルテ内のシートを活用し情報共有をよりよくしていく。</li> </ul>		
重点課題	夜中に災害が起きた際の避難対応方法を再検討する	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間火災発生想定での避難訓練を実施したが、夜間は職員が1人であるため迅速に利用者を安全な場所へ避難することは困難であった。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火災、人災を起こさないように普段から環境整備や訓練を通して防災意識を高める。</li> <li>・事業所での災害リスクや適した避難手段などを加西消防署に相談しアドバイスをうける。</li> <li>・災害時の避難リスクについて地域連携推進会議で地域の方へ発信する。</li> </ul>		
重点課題	支援者の介護負担に向けた取り組み	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に移乗介助が身体的負担となっており、期間中に腰痛を発症して生活上でも支障をきたす職員がいた。</li> <li>・PTによる利用者個々のADLに合わせた立位・移乗介助のコツ指導やスライディングボードの活用を行っている。</li> <li>・リフト機器について検証するが、拘縮や変形、筋緊張を抱える利用者に対して安全に且つ誰もが使用できる機器はみつからない。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適した福祉用具を探しつつ、リハビリやストレッチ、マッサージ等で利用者の身体機能と柔軟性の維持と促進に努める。</li> <li>・利用者の体重コントロール、職員個々の体調管理、安全で安楽な介助方法について学ぶ（PTによる指導や研修）ことを継続する。</li> </ul>		

重点課題	広報活動の強化	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広報委員会にて事業所パンフレットの見直しを行っている。</li> <li>・ 主に行事毎にInstagram、Facebook への投稿を行っている。</li> <li>・ 大空輝きだよりは2回の発行だった。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SNS を閲覧することがない利用者家族も多い為、大空輝きだよりの発行数を増やす。</li> <li>・ SNS は継続して投稿していく。</li> </ul>		
重点課題	地域連携推進会議の開催	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 11月に開催でき、地域の方へ事業所を知ってもらう機会となった。</li> <li>・ 地域役員の方が参加できる土曜日に行ったため市の職員の参加はなかった。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開催時期について次年度の地域役員の方と打ち合わせを行う。</li> <li>・ なごみ、くつろぎの紹介も合わせて行う。</li> </ul>		

### ⑤学習と成長の視点

重点課題	リーダー（主任等）のOJT内容と技術の向上をはかる	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外部研修参加者による伝達研修を5回行った。</li> <li>・ 利用者支援、業務、行事計画等について主任やサビ管が中心となり指導した。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次年度の研修計画に沿って実施する。</li> <li>・ 人事考課表及び目標考課表に基づいたOJTを行う。</li> <li>・ 新入職員への育成チームを作り個々の目標設定とプログラムをたて実施する。</li> </ul>		
重点課題	各専門職の知識や技術の向上の為、外部研修に参加する。	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各外部研修に8人参加した。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次年度の研修計画に沿って実施する。</li> </ul>		
重点課題	内部研修の実施と実践評価	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護技術の向上、個別支援の充実、感染予防の研修と訓練、虐待防止、AEDによる蘇生の研修をおこなった。</li> <li>・ 予定通りに内部研修を実施できたがいずれも全員参加はできなかった。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修内容の検討や準備について研修委員が管理する。</li> </ul>		

## グループホーム大空(入居者) 利用満足度調査集計結果

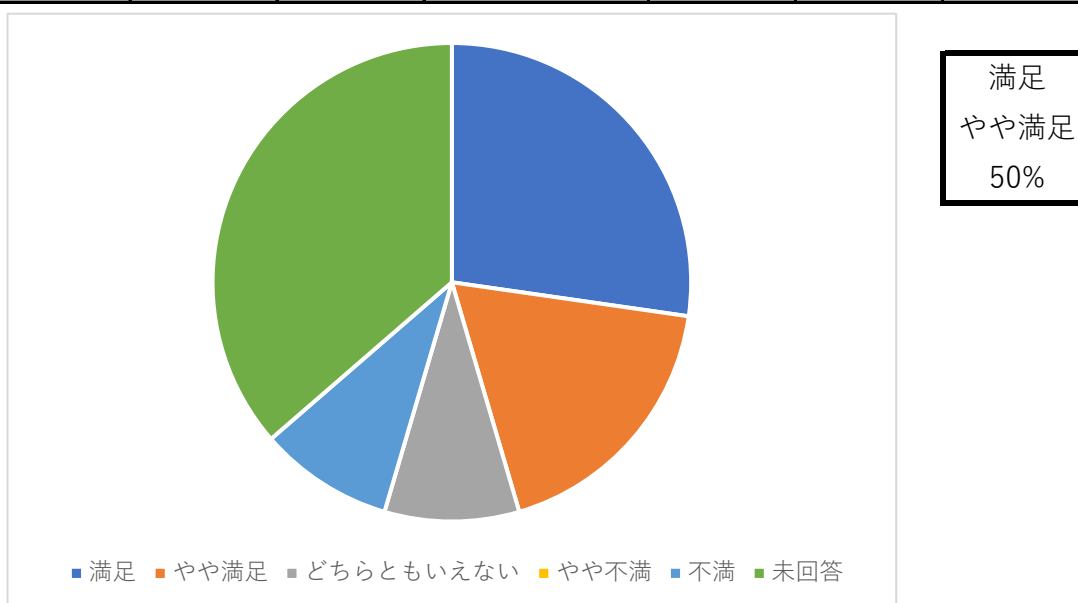
令和8年3月31日

### 【回答状況】

- ・回答率は78.6%(14人に配布し11人が回答)
- ・利用者による回答は大橋さん、西岡さん、岡田さん、他7人は利用者の家族等が回答された。

### 1.食事について

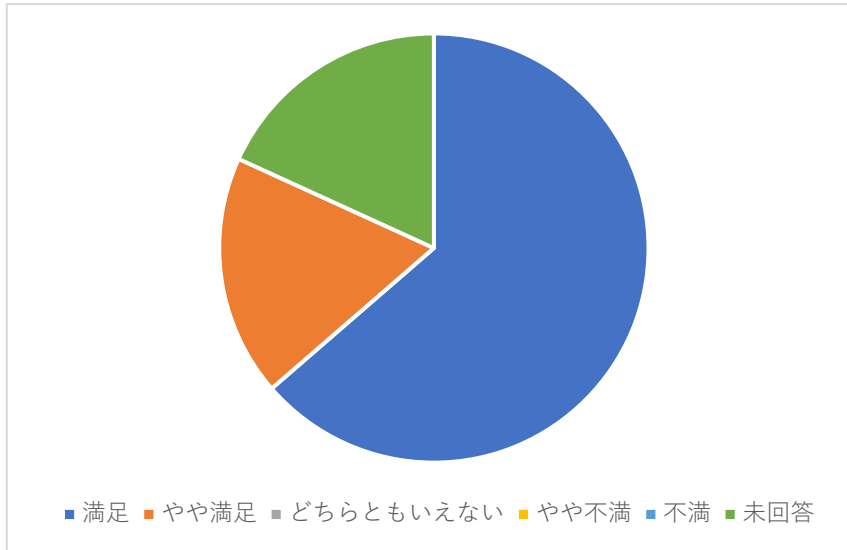
	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	未回答
回答数	3	2	1		1	4



【理由】 やや満足 ・冷凍なので野菜や果物の摂取が難しいのではないかと

## 2.住環境について

	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	未回答
回答数	7	2				2

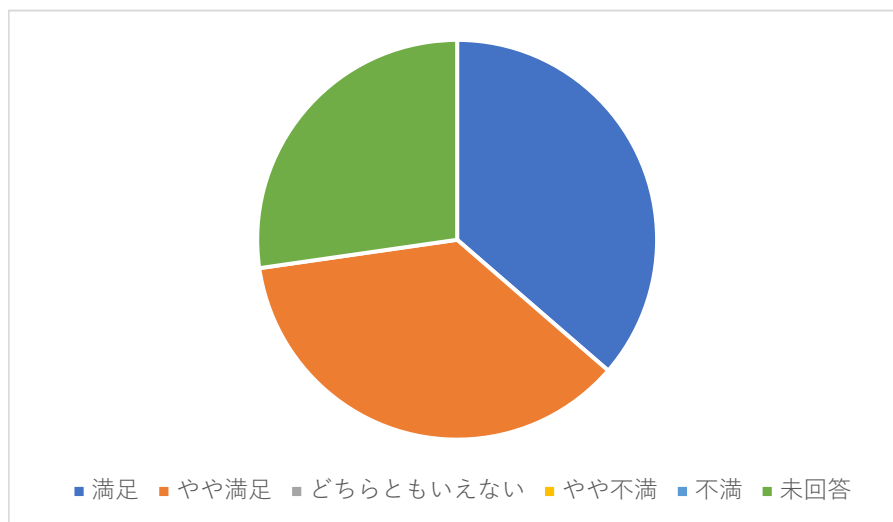


満足 ・日当たりが良い

やや満足 ・食堂が狭い、トイレが1つしかない  
・景色が良い、3Fの部屋も過ごしやすそうだ

### 3. 入浴について

	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	未回答
回答数	4	4				3

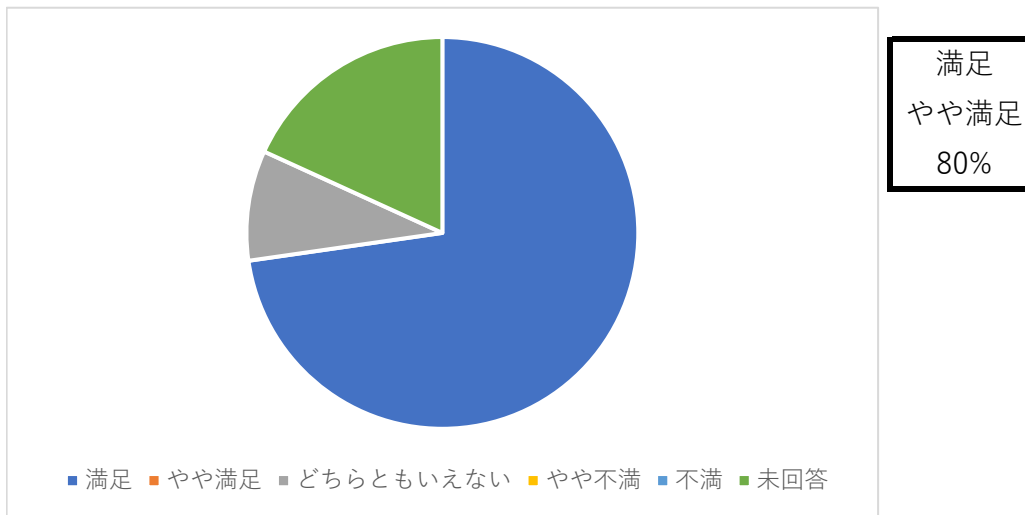


満足  
やや満足  
70%

やや満足 ・ 難しいでしょうか、回数が増えれば

#### 4. リハビリ

	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	未回答
回答数	8		1			2



##### 満足

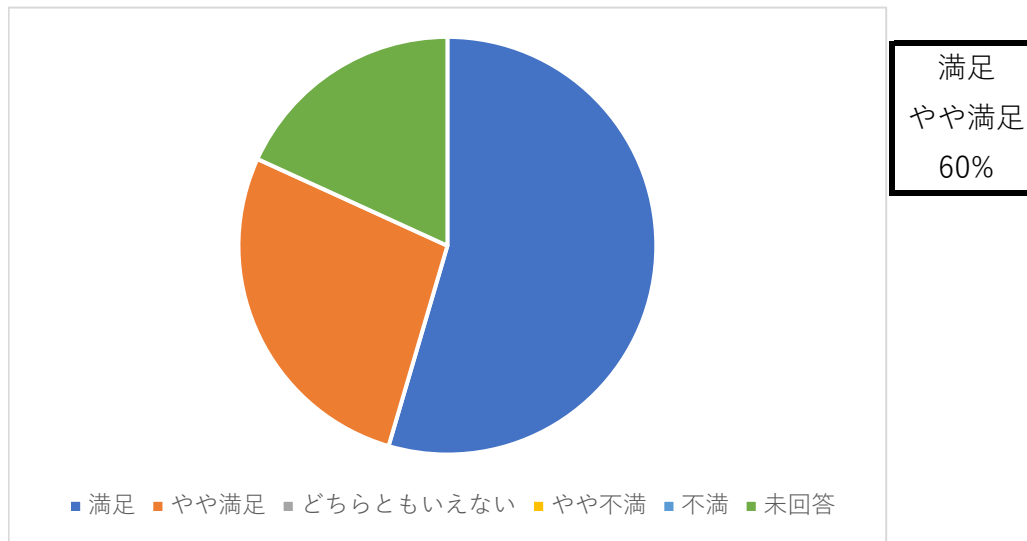
- ・ 楽しい
- ・ 立位がしっかりしてきて驚いています。  
足裏の刺激をもう少しお願いします。
- ・ 情報共有し、リハビリの時間以外でもマッサージや歩行練習をして頂いている。

##### どちらともいえない

- ・ どれくらいの回数か分からない

5. 日中活動

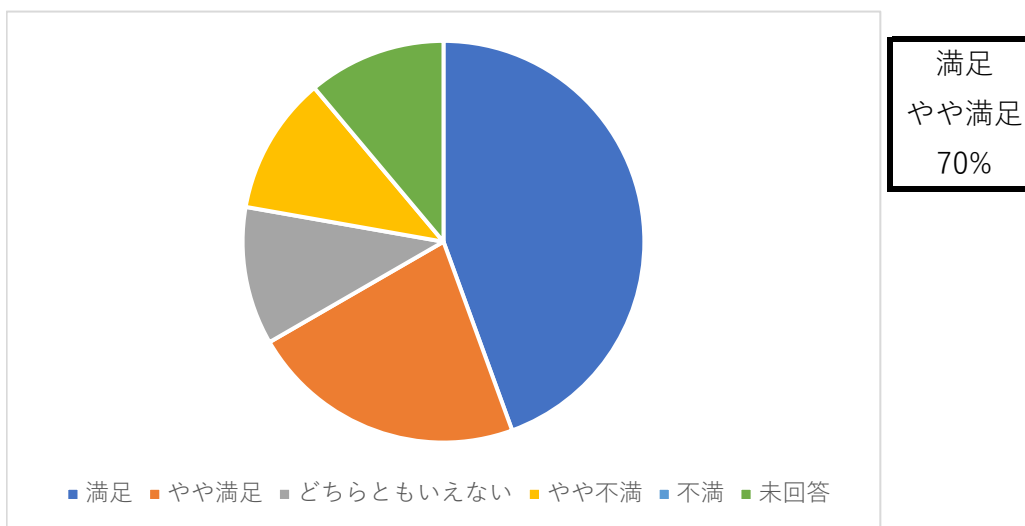
	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	未回答
回答数	6	3				2



- やや満足
- ・何をしたらいいかわからない
  - ・散歩は楽しいだろう

## 6. 外出について

	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	未回答
回答数	4	2	1	1		1

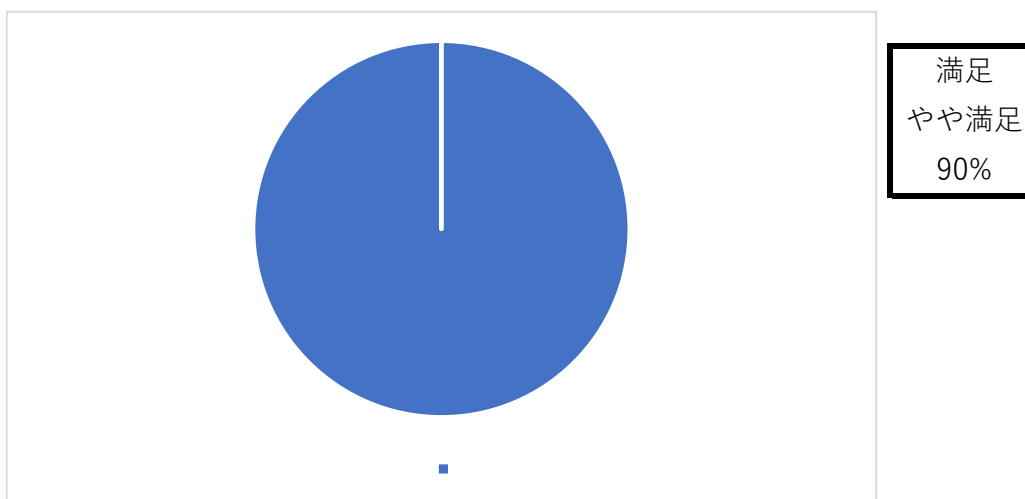


満足 ・車椅子でもあり場所等を選ぶが、ドライブ等で気分転換して頂いている

やや満足 ・外にもっと出て、買い物や外出に行きたい  
 ・お買い物へ行けたらと思います  
 ・買い物にも行っていると聞く

## 7. 行事

	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	未回答
回答数	6	4				1

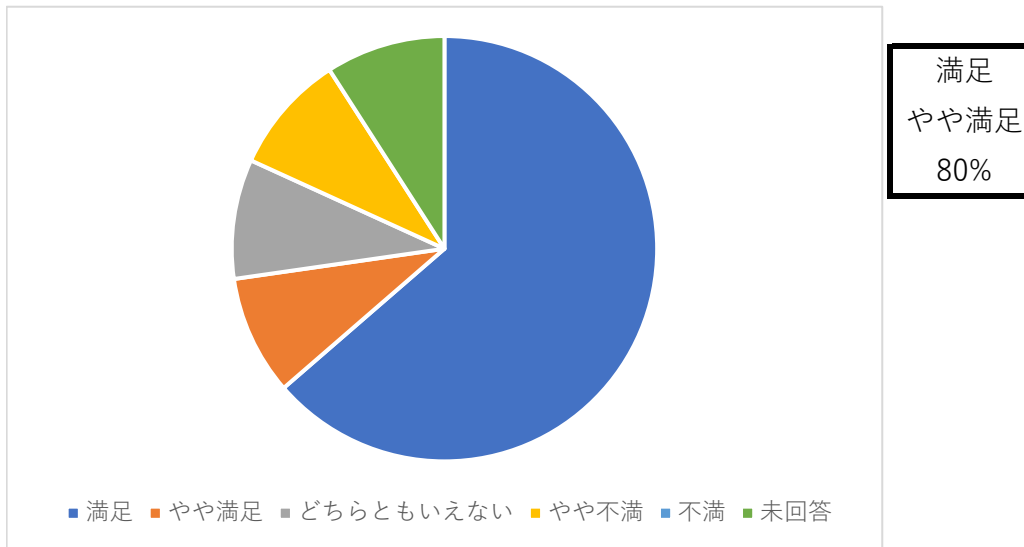


満足 ・楽しい  
 ・飾りつけなど取り組んで頂いている

やや満足 ・音楽会もあるようだ

## 8. 面会、外泊

	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	未回答
回答数	7	1	1	1		1



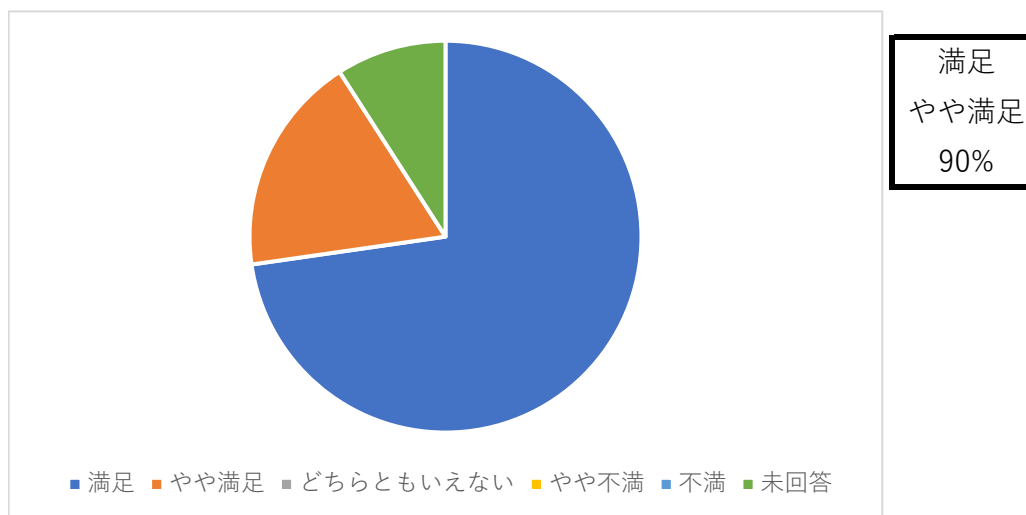
満足 ・事前の連絡は必要だが、希望通りできる

やや満足 ・もっと家族に会いたい

どちらともいえない ・外泊に関し厳しいルールがある。インフル、コロナなど

## 9. 健康管理

	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	未回答
回答数	8	2				1

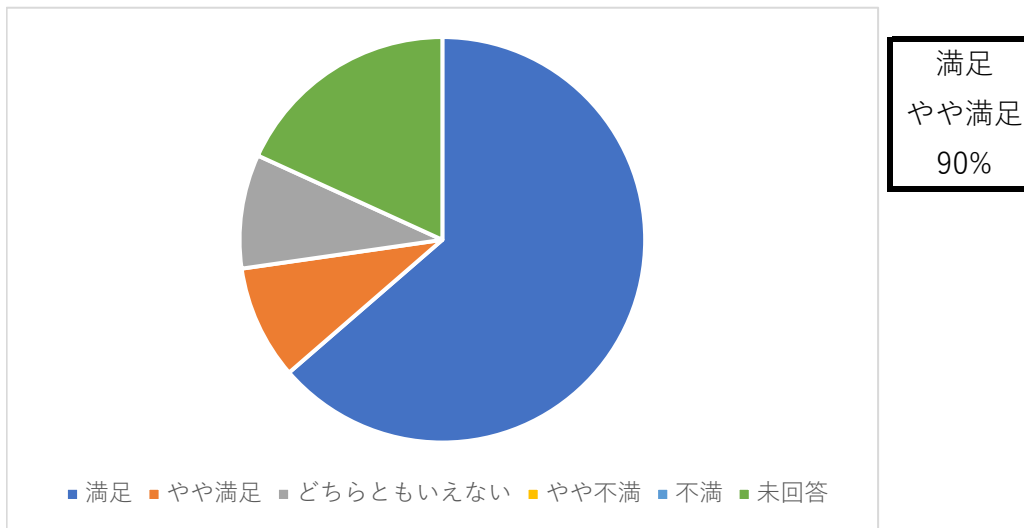


- 満足
- ・分からない
  - ・細かく見て頂いている

- やや満足
- ・入所したところにより良くなっている

## 10. 金銭管理

	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	未回答
回答数	7	1	1			2

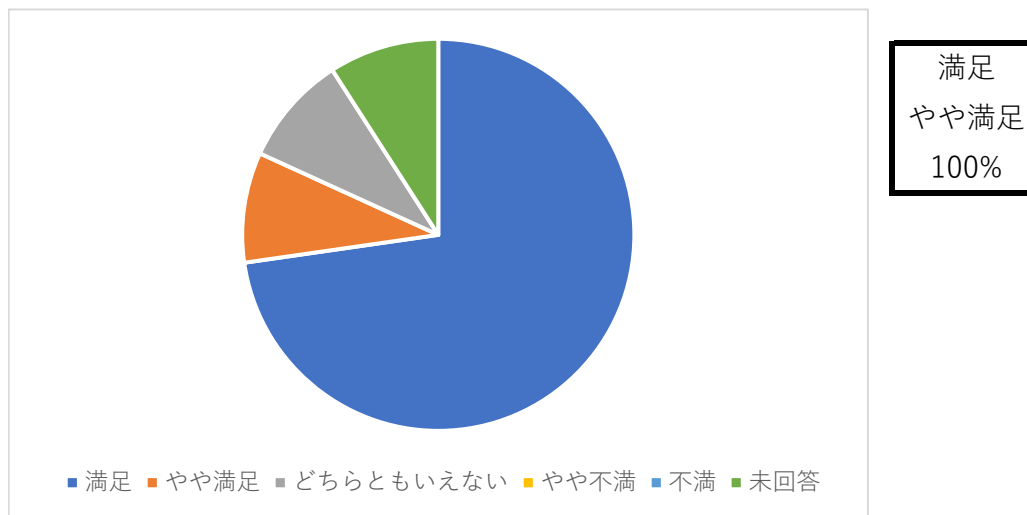


満足 ・ しっかり管理してくれてるから

どちらともいえない ・ 高いとも低いとも言えない、必要だとは思

### 11. 職員の対応

	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	未回答
回答数	8	1	1			1



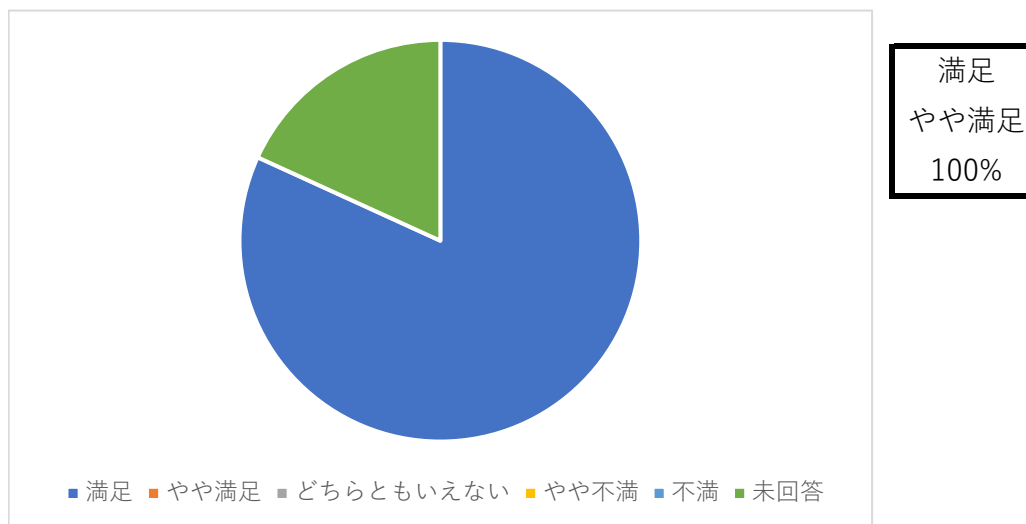
満足 ・ 明るく丁寧に接して頂いている

やや満足 ・ すぐに呼び出してきてくれる

どちらともいえない ・ 分からない

## 12. 個別支援計画

	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	未回答
回答数	9					2



- 満足
- ・自分の事を話してくれて嬉しいけど、紙に何を書いているかわからない
  - ・通院しているリハビリ担当療法士とも共有できる

## 13. その他

- ・本人の日中状態が良く分からなくてチェックが入れられなくて申し訳ありません。
- ・いつも優しくていねいに接してもらっていると感じています。これからもよろしくお願いします。
- ・いつもご配慮いただきありがとうございます。散髪回数もう少し増やして下さい。
- ・アンケートにすべて満身にチェックを付けたい気持ちですが、今回のアンケートは無回答とさせていただきます。というのも職員の方とのきちんとした情報共有が図れているか？お願いしたことは守られているか？ご迷惑をかけていないか？等々職員の方とのコミュニケーションも会話もこのごろますます少なくなり、親子とも高齢になり、まして今の自分は健康の不安を抱えつつも職員の方にはお世話になってありがとうございます。いつもながら安心、安全にらせていることは大変感謝しております。

# 令和7年度 生活介護輝き(通所) 利用満足度調査集計結果

令和8年3月31日

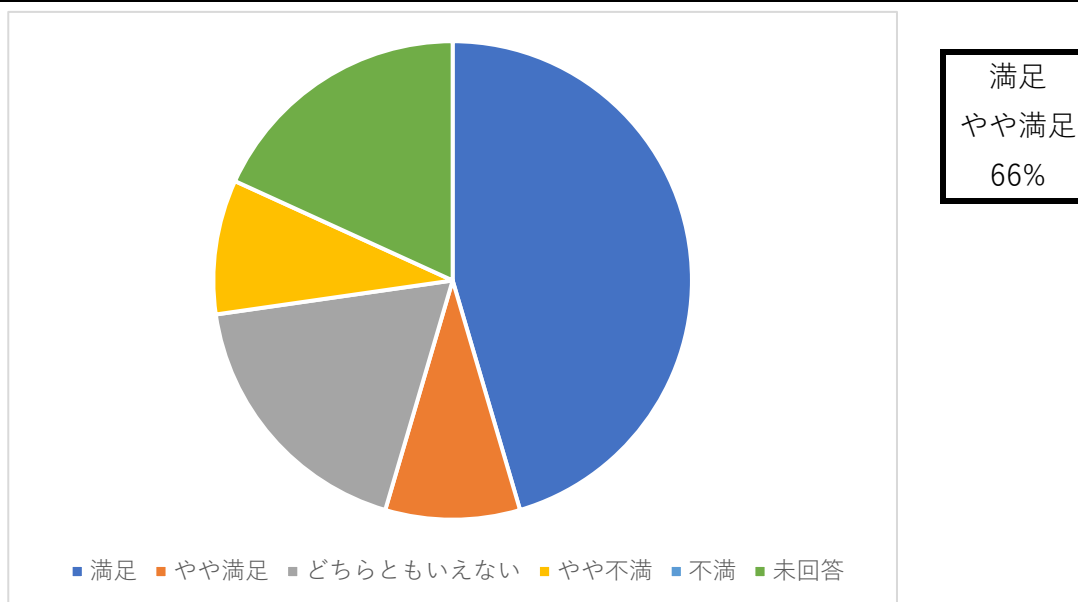
## 【回答状況】

・回答率は84.6%でした。(13人に送付、11人回収)

※満足、やや満足の割合は回収数に対しての割合

### 1.食事について

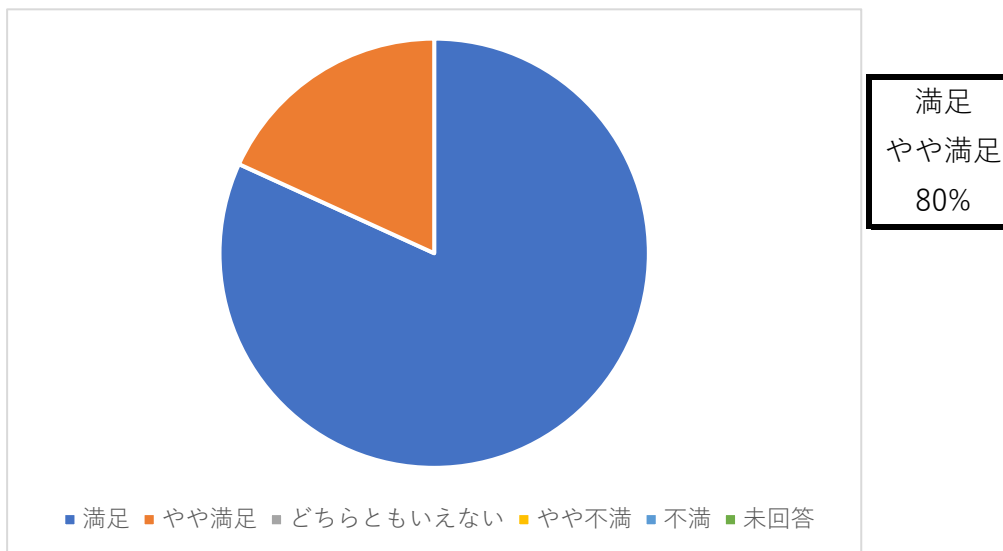
	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	未回答
回答数	5	1	2	1		2



- 満足**
- ・食事の様子見学をさせてもらって本人のペースで美味しそうに食べているのでよかったです。
  - ・食べやすい形態や好みを大切にして頂いて喜んでいきます。
  - ・毎日の食事が美味しいようで体重が増えています。
- やや満足**
- ・量的に少なめかもしれませんが、家では間食はしませんので3度の食事は多めに食べていると思います。
- どちらともいえない**
- ・持参食なので。
  - ・胃ろうの為。
- やや不満**
- ・おかずが全て辛い。デザートつけて欲しい。
- 未回答**
- ・経管栄養持参の為回答不要
  - ・持参したものを食べているので。

## 2.環境について

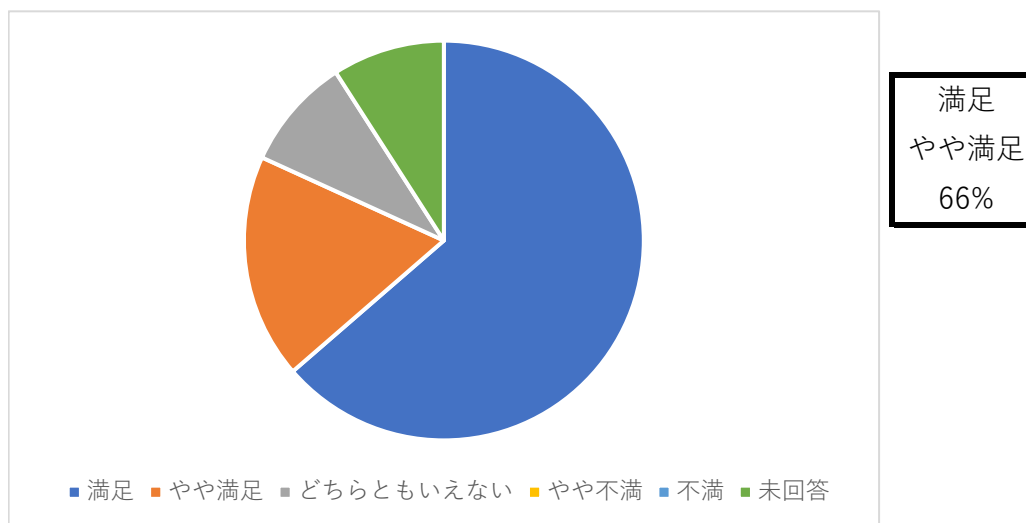
	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	未回答
回答数	9	2				



- 満足
- ・色々な活動報告を見るといつもありがたいと思っています。
  - ・屋外でのイベントや外気浴をしている写真を見ていい環境だと思った。
  - ・時々輝きさんまで行っても楽し気な飾りつけがしてあってほっこりします。
  - ・環境も建物も活動場所も満足してます。
- やや満足
- ・寒い

### 3. 入浴について

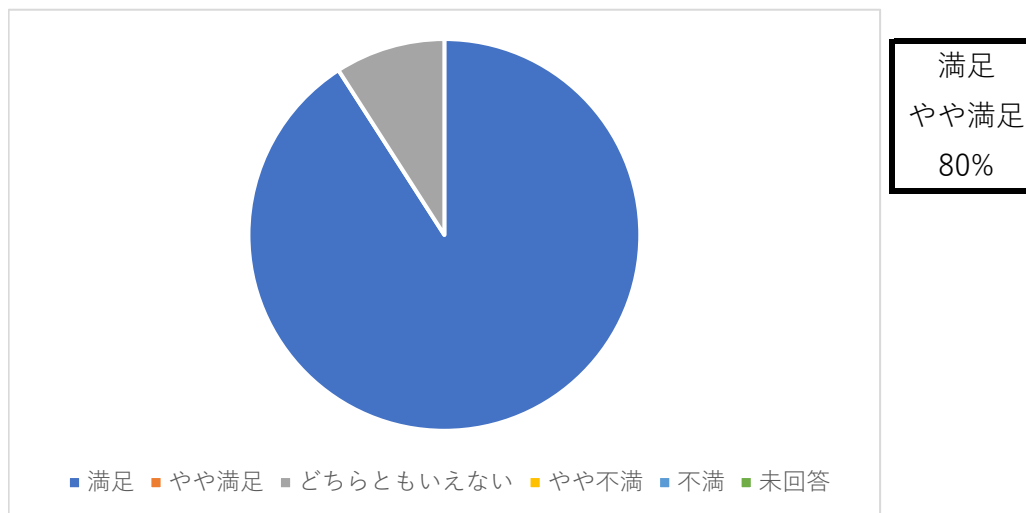
	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	未回答
回答数	7	2	1			1



- 満足**
- ・入浴は好きなので楽しみにしています。
  - ・音楽・入浴剤・柚子など変化をつけ、楽しい時間にして頂いています。更衣も丁寧にして頂いています。
  - ・入れて頂けるだけで感謝です。
  - ・手早く丁寧
  - ・大きな浴槽に入れてもらっていつもありがとうございます。
  - ・置きシャンプー・トリートメントなど出来る施設は輝きさんだけです。
- やや満足**
- ・正直回数が減るのは残念です。特に夏場は心配ですがお互い様なので大丈夫です。
  - ・4月から入浴が週1回になるので…。これから清拭と合わせて身体の状態を見ていきたいと思います。
  - ・全介助なので入浴も本当に大変かと思ひます、ありがとうございます。
- どちらともいえない**
- ・あまり利用しないので

#### 4. リハビリ

	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	未回答
回答数	10		1			



##### 満足

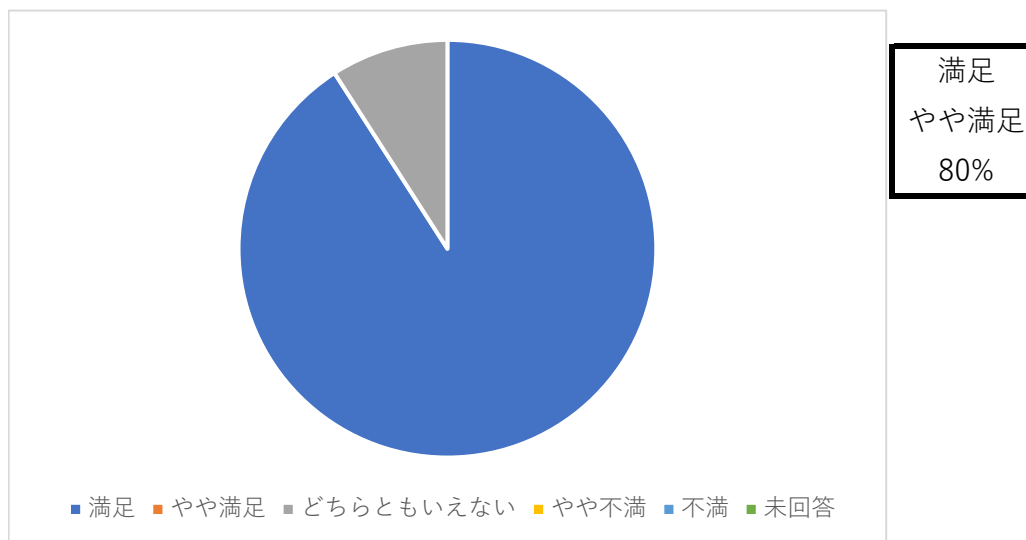
- ・いつも優しく本人に合わせたりリハビリをして頂いてありがたく思っています。
- ・わりとむくみがちなので（冷えも）よくリハビリやマッサージもして頂いて感謝しています。
- ・輝きに行っている日は訓練をしてもらっているようです。
- ・個人的なりハビリ時間も充実しており、それ以外でもストレッチや感覚遊び等細かく配慮して関わって下さってありがたいです。
- ・して頂けることに感謝しています。
- ・じっくり丁寧
- ・端座位迄してくださって本当にありがとうございます。
- ・PTを少しでもして頂けるだけでもありがたいです。

##### どちらともいえない

- ・どんなことをしているのか分からない

## 5. 日中活動

	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	未回答
回答数	10		1			

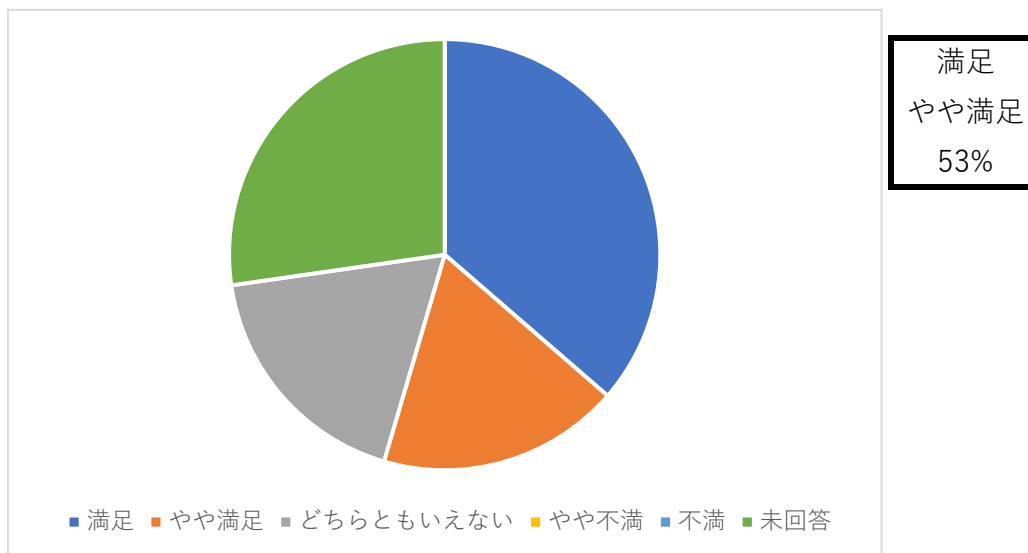


### 満足

- ・音楽や豆まきや紙芝居など色々参加させてもらって雰囲気を楽しんだり好きなおさるのジョージ体中でウキウキと楽しそう
- ・毎回各行事をして頂いてありがたいです。
- ・行事毎や音楽療法等、色々お楽しみを考えて下さって本人にとっても嬉しいと思います。訪看さんにも大好評です。
- ・毎日輝きでは楽しく過ごしていると思います。
- ・毎回楽しい事、喜ぶことを考え準備して下さり、細かく声掛けして頂いているので満足しています。
- ・全体・個人など考えて活動して下さっているのです。
- ・何かのイベントの時、息子も参加させていただいている様子を見て手に持たせてもらっている事など嬉しく思います。
- ・スタッフの方々が熱心であるからこそ活動内容が多いと思います。

## 6. 外出について

	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	未回答
回答数	4	2	2			3



### 満足

- ・フラワーセンター横の環境は最高だと思います。
- ・おそらく当人は外があまり好きではない気がしますが…。
- ・いいお天気の日には外に出て花を見るのもいいと思います。
- ・冬場でも天気のいい日に外気浴して下さっている事ありがとうございます。

### やや満足

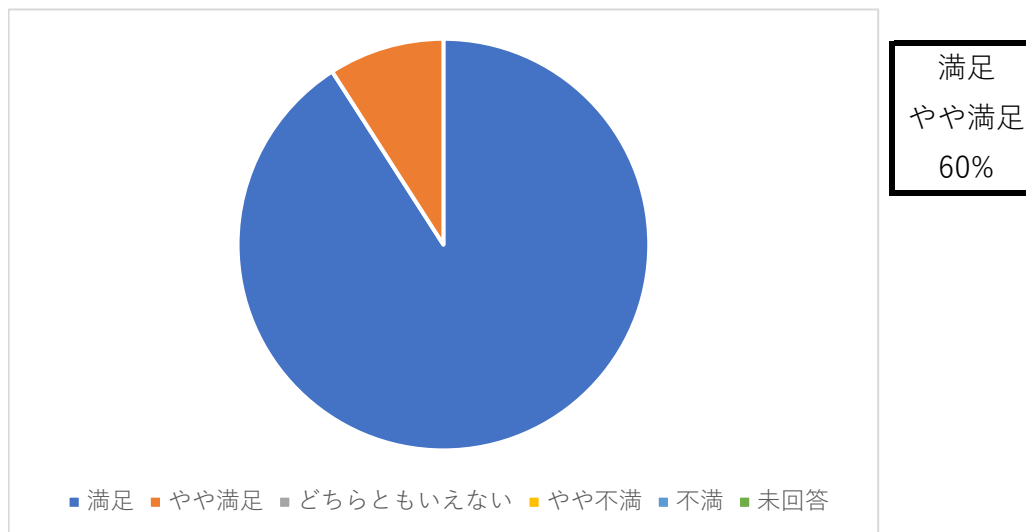
- ・ファミレス（食事）やイオンヘドーナツを買いに行くとかあると嬉しいと思います。
- ・感染症が落ち着いている時期に以前のような外出が増えると嬉しいです。

### どちらともいえない

- ・外出ないので。

## 7. 行事

	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	未回答
回答数	10	1				



### 満足

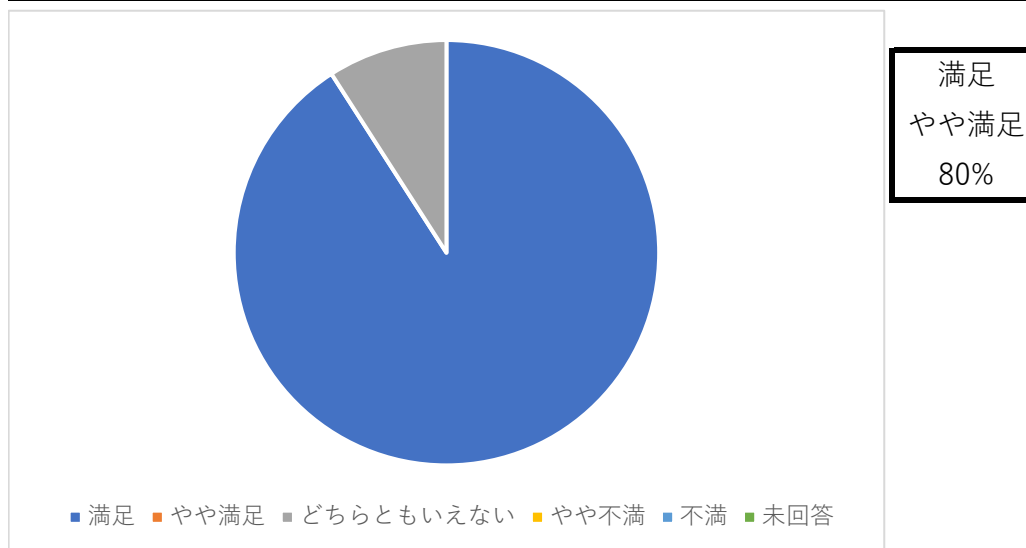
- ・ 季節の行事、色々されているのでいいと思います。
- ・ 季節の行事を大切にして時間をかけて準備して下さるので毎回楽しみにしています。
- ・ 季節を感じる行事を取り入れ、利用者の事を考えて工夫しているので。
- ・ 1年間の行事で色々と考えてされていると思います。
- ・ 本人も家族も楽しみにしています。
- ・ いつも感謝しています。
- ・ 写真もつけて下さって、うちも楽しめます。
- ・ いつも季節を感じる行事をされていると思いました。

### やや満足

- ・ 色々なものを皆で工夫して作っている。

## 8. 連携（家族様との連絡・情報交換）

	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	未回答
回答数	10		1			



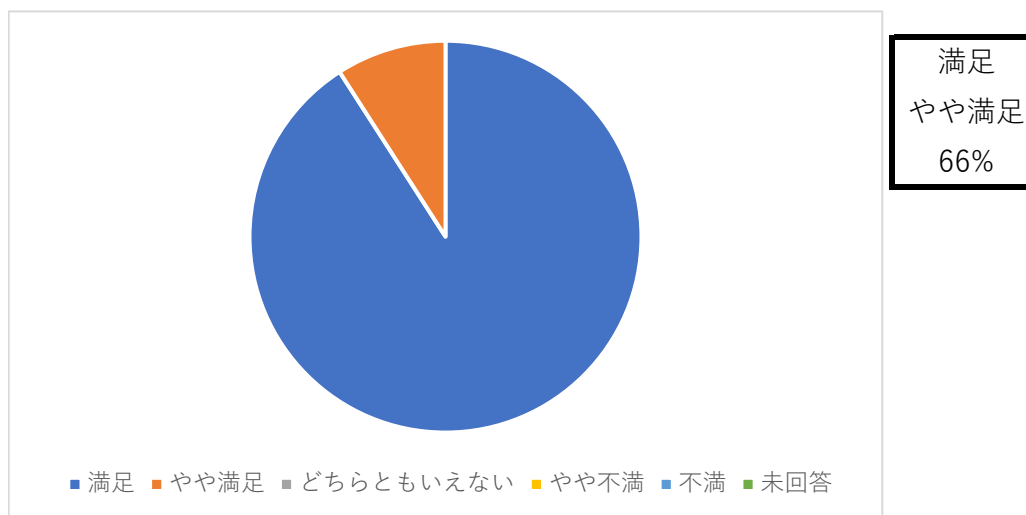
### 満足

- ・連絡帳で一日の様子がよく分かるので。
- ・細かくその都度すぐ連絡・報告して下さるので安心しています。
- ・何かあればすぐに対応して下さる。
- ・一日の様子を写真付きで細かい日誌情報で満足です。
- ・参加強制が無いのが最高です。
- ・すぐ連絡をくださるのでいいと思います。
- ・何かあれば電話をくださるし私からも相談・連絡しやすいです。

### 未回答

## 9. 健康管理

	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	未回答
回答数	10	1				

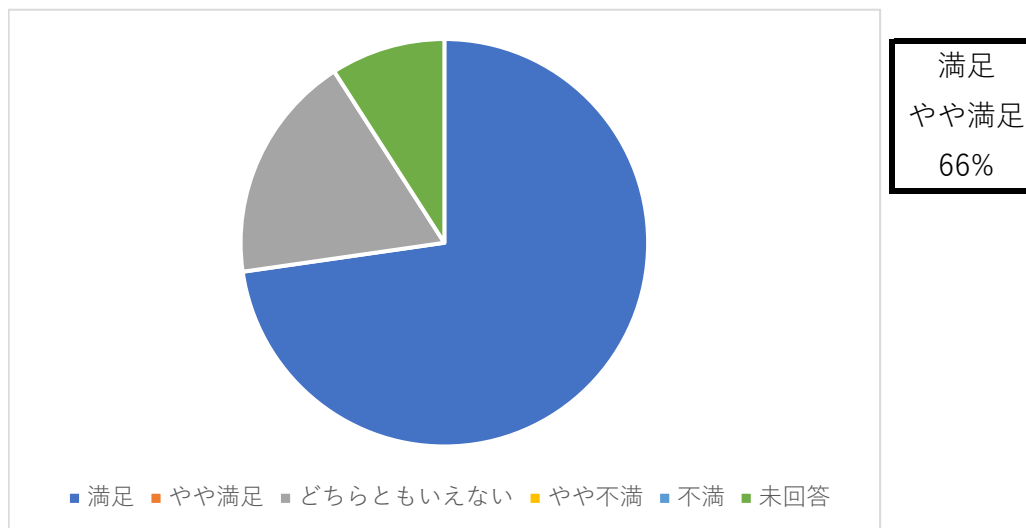


### 満足

- ・インフルエンザにかかってまだ本調子でなかった時、私がうつって2日ほどは大変で、デイサービス本当に助かりました。
- ・職員皆さんが細かく観察してくださっているので安心してます。
- ・子どもに対してよく見ておられる。
- ・食後の歯磨きもありがたいです。
- ・細かなところもみて頂いて、こちらも気づくことがあります。
- ・気遣って下さりありがとうございます。
- ・口腔ケアを毎回してくださっていることなど…。

## 10. 送迎について

	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	未回答
回答数	8		2			1



### 満足

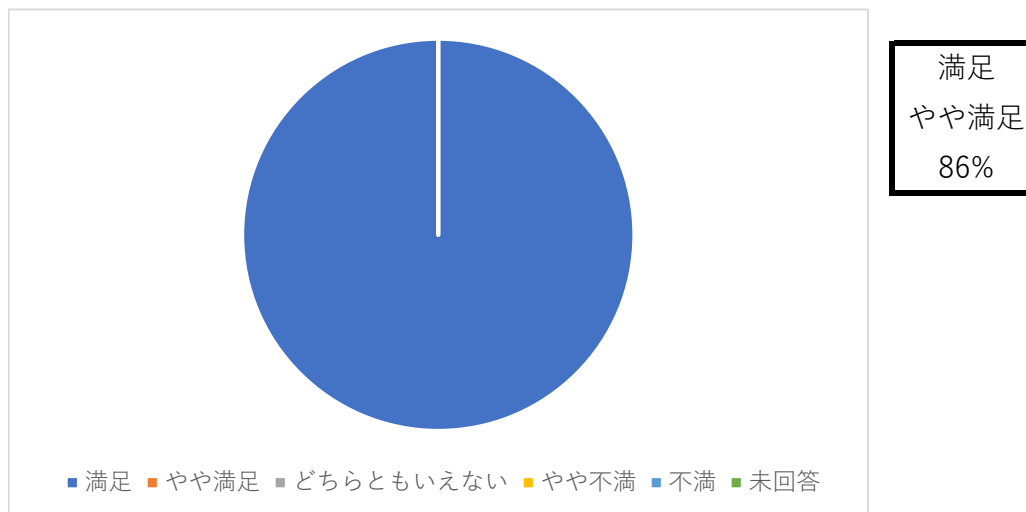
- ・安全運転
- ・丁寧な対応でいいと思います。
- ・ほぼ時間通りです。
- ・やさしく声をかけてもらい、本人も安心して出かけられていると思います。
- ・皆さん気持ちよく送迎して下さっています。家の道も狭く、他のデイの車と出会うこともあり、申し訳なく思っています。
- ・トラブルなく送迎して下さっています。

### 未回答

- ・週一回の登施なので自送は気になりません。

## 11. 職員の対応

	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	未回答
回答数	11					



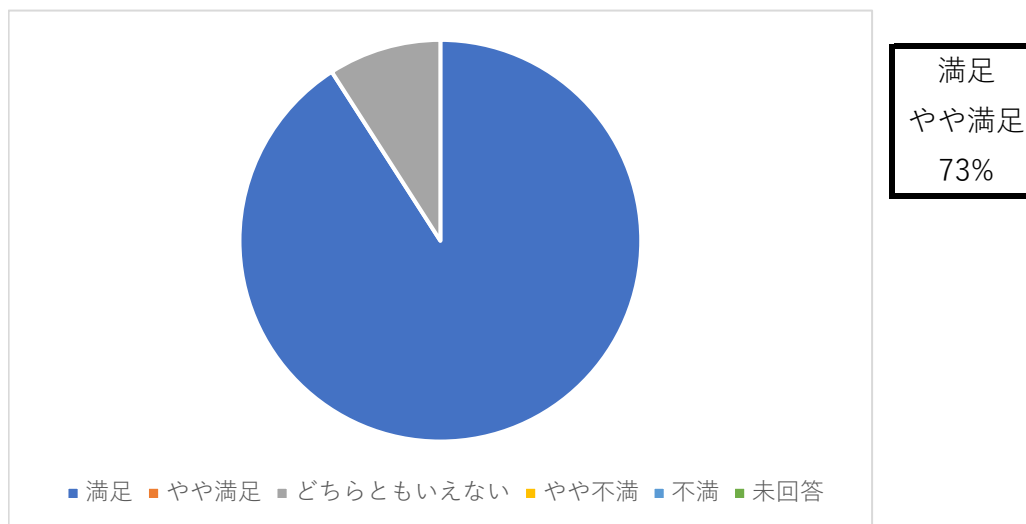
- 満足
- ・いつも子どもに対して声掛けをしてくださりありがたく思っています。
  - ・みんな頑張っている！
  - ・丁寧な対応でいいと思います。
  - ・全職員さんが丁寧に子どもに接して下さり喜んでいきます。
  - ・大変良いです。家族もとても安心できています。
  - ・皆さん親切で楽しいです。
  - ・送迎の時などお声がけいただきます。
  - ・皆さん、いつもありがとうございます。

やや満足

未回答

## 12. 個別支援計画

	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	未回答
回答数	10		1			



- 満足
- ・ 過ごし方など分かりやすいのとアンケートなどで意見が言いやすいです。
  - ・ 常に本人の様子を気にかけて下さっているのがわかります。
  - ・ 問題ないと思います。満足してます。
  - ・ 細かく観察してもらっているので計画もありがたくい思っています。
  - ・ 色々取り組んでもらってうれしいです。
  - ・ 子どものこと良く観察して下さっている。

## 13. その他

- ・ 利用の延長、用事がある時ありがたいです。
- ・ いつもありがとうございます。何をやるにも手をかけてしまいますが、これからもよろしくお願いします。
- ・ 散髪の回数をもう少し増やして頂けたらと思います。
- ・ 最近体を動かすような事がおっくうなようで、ほとんど拒否していませんか？ 申し訳ないです。ご迷惑おかけしていませんか？

